

あの津から

— 三重大学工学部同窓会誌 —

復刊第13号



あの津から

— 三重大学工学部同窓会誌 —

復刊第13号



三重大学工学部同窓会

<https://www.dousoukai-mie-ueng.org/>

2026年7月



目次

◆ 工学研究科研究室ご紹介(前号からの連番)	1
【研究室紹介 ⑳】材料機能設計研究室	4
【研究室紹介 ㉑】流動制御研究室	6
【研究室紹介 ㉒】磁気システム研究室	8
【研究室紹介 ㉓】高周波メタフォトンクス研究室	10
【研究室紹介 ㉔】ナノオプティクス研究室	12
【研究室紹介 ㉕】量子回路テクノロジー研究室	14
【研究室紹介 ㉖】半導体計算科学研究室	16
【研究室紹介 ㉗】量子ナノ機能化学研究室	18
【研究室紹介 ㉘】無機素材化学研究室	20
【研究室紹介 ㉙】分析環境化学研究室	22
【研究室紹介 ㉚】分子生物工学研究室	24
【研究室紹介 ㉛】建築熱環境研究室	26
【研究室紹介 ㉜】建築材料・施工、コンクリート工学研究室	28
【研究室紹介 ㉝】鋼構造・合成構造、地域防災研究室	30
【研究室紹介 ㉞】情報通信システム研究室	32
【研究室紹介 ㉟】データサイエンス研究室	34
【研究室紹介 ㊱】知能化ライフサポート研究室	36
◆ 三重大工学部同窓会行事	
三重大工学部同窓会総会開催(2025年度)	38
工学部同窓会に女子力を注ぎ込む	39
グローバル人材育成プロジェクト報告(2025年度)	40
英国セントラルランカシャー大学留学報告(2025年度)	41
スペインジャウメー世大学に留学報告(2025年度)	44
研究支援成果報告会及び審査会(2025年度)	46
学生団体活動支援審査会(2026年度)	49
2025学生フォーミュラ日本大会参戦報告書	50
学生団体活動支援審査会について M ³ RC	53
学生団体活動支援審査会について Craft Space	54
海外視察ツアー タイ・バンコク及びチェンマイ5日間報告	56

◆ クラス会関連(開催順)	
【2025年4月】 第一回「鈴伊高作の会」開催報告	59
【2025年10月】 第4回大学クラス会in長野開催報告	60
【2025年10月】 名古屋支部懇親会開催報告	61
【2025年10月】 御当地開催シリーズ1期同期会開催報告	62
【2025年12月】 関東地区懇親会(忘年会)開催報告	63
【2026年4月】 10期化学クラス会開催報告	64
【2025年4月】 5期電気同窓会開催報告	65
◆ 会員からの寄稿	
ロック徒然草～音とこころの旅	66
アマチュア無線開局55年	70
◆ 工学部同窓会 会計報告(令和6年4月1日～令和7年3月31日)	72
◆ 会計監査報告書(令和6年4月1日～令和7年3月31日)	73
◆ 工学部同窓会 会計報告(令和7年4月1日～令和8年3月31日)	74
◆ 会計監査報告書(令和7年4月1日～令和8年3月31日)	75
◆ 三重大学振興基金ご協力をお願い	76
◆ 工学部入学期早見表	78
◆ 企業広告	79
◆ ホームページのご案内と会則改正案アンケート	82
◆ 編集後記	83

工学部構内・校舎内を
ドローンで撮影しました！
(2024年11月撮影)



懐かしい風景をYou
Tubeで公開中！



PCからは で検索





工学研究科長

のぶゆき

今西 誠之 教授

2026年4月より、三重大学大学院工学研究科長に就任いたしました今西誠之です。どうぞよろしくお願いいたします。

三重大学工学部・工学研究科は2025年4月に改組を実施し、機械工学、電気電子工学、電子情報工学、応用化学、建築学、および情報工学の6コース・専攻の体制で教育研究が進められています。（次ページ参照）

グローバルな大学の実現を目指して

2004年の国立大学法人化以降、本学では広範な教育・研究活動が展開されており、特に工学部・工学研究科では、教育・研究・社会連携を通じてグローバルな大学の実現を目指しています。半導体や次世代エネルギーなどの先端分野に取り組む複数の研究組織や新設のリサーチセンターでは、国際的に通用する専門技術者の育成と科学技術の発展に貢献しています。

本誌では、こうした取り組みの一環として、工学部・工学研究科に所属する50以上の研究室にスポットを当て、その活動内容を連載でご紹介しています。2023年から少しずつ取材を進めており、昨年度までに26の研究室を取材、今年度はさらに17の研究室をご紹介します。

学生の皆さんにはこれからの進路の参考に、すでに研究室に所属している皆さんには他の研究室の活動を知る機会となれば幸いです。OB・OGの方には母校が今どんな活動をしているのかを知っていただき、産官学連携に繋がれば嬉しく思います。また、近年話題のリスキングの一環として再入学を検討している方もいらっしゃると思いますので、ぜひご検討ください。

さらに、掲載の研究室では動画取材も実施しています(※)。大学の歩みとともに変化・進化する研究の最前線を、映像を通じてより身近に感じていただければ幸いです。

※ 一部を除く

PROFILE

博士(工学) 京都大学 1993年

専門分野／工業物理化学・無機工業材料(リチウム電池などの応用電気化学)

1986年 京都大学工学部工業化学科 卒業

1988年 京都大学大学院工学研究科 修士課程修了

1990年 京都大学大学院研究科 博士課程中退

1990年 三重大学工学部 助手

2000年 三重大学工学部 助教授

2012年 三重大学大学院工学研究科 教授

2020年～ 三重大学副学長・理事・
地域拠点サテライト統括者などを歴任

2026年4月 大学院工学研究科長(工学部長)就任

工学部・工学研究科の概要図

工学研究科・工学部案内 2026より



RESEARCH LAB MOVIES

工学部同窓会 公式 YouTube チャンネル



スマホで読み取り
「三重大学工学部同窓会」で検索

【研究室ご紹介】
三重大学工学部同窓会
@FEAA2024mie-u

チャンネル登録
お願いいたします

同窓会企画のチャンネルです。スマホはQRコードからどうぞ。

Q



【研究室ご紹介】三重大学工学部同窓会
@FEAA2024mie-u · チャンネル登録者数 83人 · 37 本の動画
三重大学工学部研究室のご紹介チャンネル。工学部同窓会により企画・取材・編集...さらに表示

チャンネル登録

[ホーム](#)
[動画](#)
[再生リスト](#)

動画



材料機能設計研究室 機械工...
117 · 2 週間前



教授 村田 博司 先生 高周...
62 · 2 週間前



三田研究室 建築構造系 (建...
86 · 1 か月前



准教授 元垣内 敦司 先生 ナ...
158 · 1 か月前

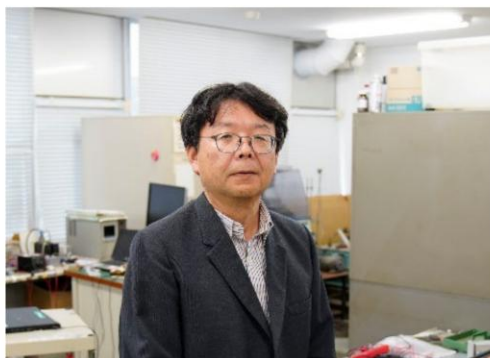
研究室紹介ムービーを続々公開中。ぜひご覧ください。

2

今号ご紹介する研究室一覧

(番号は 11 号・12 号 からの続きとなっています)

機械工学専攻		
27	材料機能設計研究室 教授 川上 博士 先生 / 助教 尾崎 仁志 先生	P.4
28	流動制御研究室 准教授 安藤 俊剛 先生 / 助教 高橋 護 先生	P.6
電気電子工学専攻		
29	磁気システム研究室 准教授 藤原 裕司 先生	P.8
30	高周波メタフォトンクス研究室 教授 村田 博司 先生	P.10
31	ナノオプティクス研究室 准教授 元垣内 敦司 先生	P.12
32	量子回路テクノロジー研究室 准教授 内海 裕洋 先生 / 特任助教 中出 捷 先生	P.14
電子情報工学専攻		
33	半導体計算科学研究室 教授 秋山 亨 先生 / 准教授 河村 貴宏 先生	P.16
応用化学専攻		
34	量子ナノ機能化学研究室 教授 八尾 浩史 先生	P.18
35	無機素材化学研究室 教授 石原 篤 先生 / 教授 橋本 忠範 先生	P.20
36	分析環境化学研究室 准教授 勝又 英之 先生	P.22
37	分子生物工学研究室 教授 湊元 幹太 先生 / 准教授 鈴木 勇輝 先生	P.24
建築学専攻		
38	建築熱環境研究室 教授 永井 久也 先生	P.26
39	建築材料・施工、コンクリート工学研究室 教授 三田 紀行 先生 / 助教 孫 文可 先生 / 技術職員 和藤 浩 さん	P.28
40	鋼構造・合成構造、地域防災研究室 教授 川口 淳 先生	P.30
情報工学専攻		
41	情報通信システム工学研究室 教授 真鍋 哲也 先生 / 助教 安藤ダニエル明 先生	P.32
42	データサイエンス研究室 教授 松岡 真如 先生 / 講師 奥原 俊 先生	P.34
43	知能化ライフサポート研究室 准教授 小川 将樹 先生	P.36



機械工学専攻 材料プロセス講座
材料機能設計研究室

2026年4月取材

教授 川上 博士 先生

博士(工学)三重大学。1993年に三重大学工学部機械工学科に着任。以降、2005年 助教、2006年 准教授を経て現在に至る。研究分野は溶接・接合工学、材料加工プロセス、固相接合、レーザー加工。

助教 尾崎 仁志 先生

博士(工学) 名古屋大学 2008年。名古屋大学工学部物理工学科を卒業。同大学院工学研究科マテリアル理工学専攻(材料工学分野)修士課程修了。同博士後期課程修了。その後、三重大学工学部機械工学科に着任し、現在に至る。研究分野は溶接・接合工学、レーザー加工、材料加工プロセス。



研究室概要 溶接・接合・切断を核とした新加工プロセスの探求と、マルチマテリアル社会を支える接合技術の開発

溶接・接合・切断を中心とした新加工プロセスの提案と応用を研究の柱に据え、機械材料学・金属材料の知識を基盤に「いかにして異なる素材を確実につなぐか」という問いに正面から向き合っています。脱炭素社会の実現に向けたマルチマテリアル化や軽量化が産業界の急務となるなか、その回答を工学の視点から提示しています。

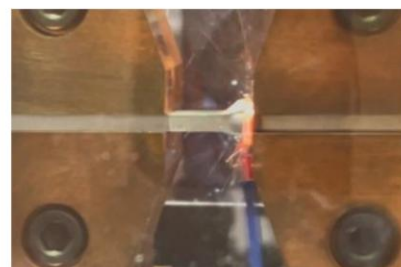


銅とアルミニウムの固相

動画で紹介している研究について

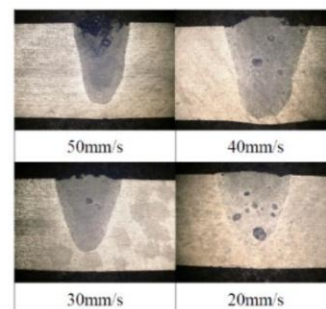
銅×アルミニウムの共晶反応を利用した接合技術

銅とアルミニウムを突き合わせながら電流を流し、接合部に共晶液相を生成・凝固させることで異材接合を実現。課題は「電食(ガルバニック腐食)」が継手強度に与える影響で、重量・強度の観点から研究中。環境対応型インフラへの応用が期待されています。



CO₂レーザー照射によるアルミニウム合金の加工特性の解明

炭酸ガスレーザーをアルミニウム合金試験片に照射し、表面温度・照射速度・溶融形状の三者の関係性を明らかにする研究。実験棟のCO₂レーザー加工機を主に使用しています。



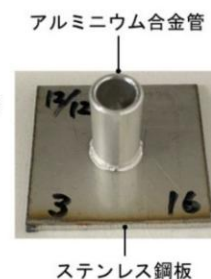
溶接速度20mm/s		5mm	
Shape	Circle.C.W	Linear	
Frequency			
10Hz			
40Hz			

レーザーオービタル技術を用いた溶接の研究

炭酸ガス(CO₂)レーザーを用いたアルミニウム合金の加工では、表面温度・照射速度・溶融形状の相関関係の解明を進めています。また、レーザーウォブリング技術を活用した溶接では、ミラーを回転させてレーザー光の軌跡を円形やジグザグに変化させ、従来のレーザー溶接で課題となっていた段差・ギャップへの対応力を高めています。

アルミニウム合金管×ステンレス鋼板の抵抗溶接による継手性能

形状も材料も異なる組み合わせでの抵抗溶接を研究。同材・同形状が前提の従来手法を超えた異形状・異材料接合に挑むが、接合面の品質確保に課題が残る段階です。



研究室について

学生一人ひとりが自らの意志でテーマに向き合い、確固たる信念を持って研究に取り組んでいます。週1回の全体ミーティングで進捗を共有するほか、グループ別の班ミーティングも実施。新歓コンパや発表会後の打ち上げ、忘年会など、仲間との交流を深める行事も充実しています。材料機能設計研究室で、充実した研究室ライフを一緒に歩みましょう！！



興味をお持ちの方は、見学にいらしてください！

学生の卒業後の進路

トヨタ紡織、アビームシステムズ、シンフォニアエンジニアリング、住友電装、マキタ、進和、中部電力、パナソニック、デンソー、クボタ、トヨタ車体など

連絡先

kawakami@mach.mie-u.ac.jp (川上先生)

ozaki@mach.mie-u.ac.jp (尾崎先生)

研究室
紹介動画は
こちら





機械工学専攻 環境エネルギー講座
流動制御研究室

2025 年 12 月取材

准教授 安藤 俊剛 先生

三重大学工学部機械工学科を卒業後、同大学院工学研究科修士課程修了、2006 年に博士(工学)を取得。1995 年より三重大学に助手(2007 年より助教)、2013 年より現職。専門分野は流体力学・伝熱工学。現在の研究課題は剥離制御・混相流。「学生として新設の研究室に所属して以来、研究室・実験室が建屋をまたいで引っ越しばかりしています」。

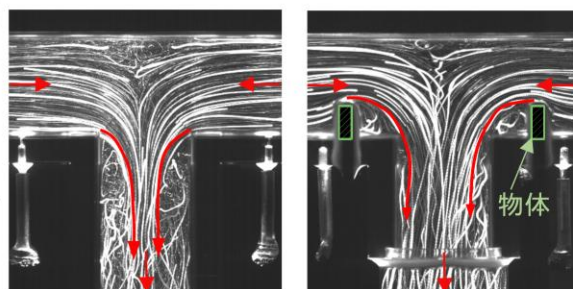
助教 高橋 護 先生

名古屋大学学士課程を卒業後、同大学院工学研究科修士課程・博士課程修了、2019 年に博士(工学)を取得。同年4月より三重大学工学研究科 助教。現在の研究課題は噴流混合の制御、熱交換促進と摩擦低減の同時実現、生理学手法による流体現象の人間親和性評価。「趣味は出張先で学会発表を頑張った学生へのご褒美ご馳走。マラソンの習慣はハーフ完走を達成して燃え尽きたため、過去の栄光に」。



研究室概要 流体現象は身の回りのあらゆる場面で見られ、その理解は機械の高性能化や、環境問題・エネルギー問題解決のために大いに役立ちます。当研究室では環境・エネルギー機器の性能向上のため、関連する複雑流動現象(乱流・混相流・流体－構造連成)に対する現象解析、および計算手法・流動制御方法の開発を行っています。

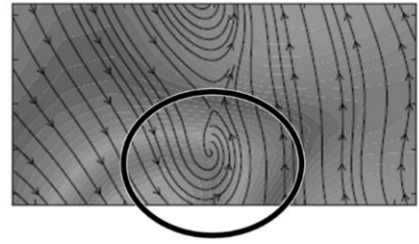
剥離制御・損失低減の研究 剥離流れを簡便な方法で制御する方法を開発、管路系にこれを応用し、急縮小・合流などの断面の急変を伴う管路要素のエネルギー損失の低減法を提案しています。図は、可視化された T 字管内の合流(左)と、堰状物体の設置による合流後の縮流抑制(右)の様子です。物体が増加させたエネルギー損失より合流後の流れの拡大が減少させた損失よりも少なく、全体の損失が低減されます。



乱流輸送現象の基礎研究: 有益な「秩序運動」の特定

不規則で予測困難な挙動を見せる流れ「乱流」の中

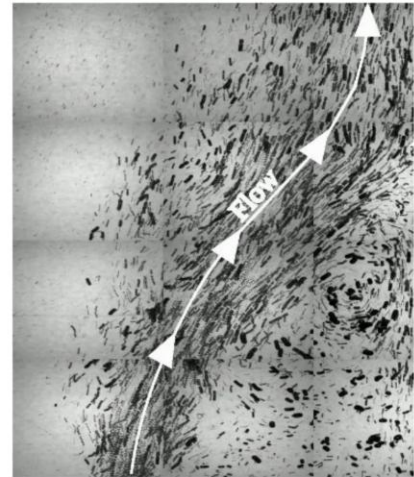
から、秩序立って現れる特別な流れのパターンを取り出し、さらにそれらが流体混合や熱・物質移動に与える影響を調査しています。図は乱流で自然発生すると判明した、熱交換を促進しながらも摩擦抵抗を抑えるのに役立つ流動パターンです。



研究室紹介動画より

① 壁面付着 気液二相噴流における気泡挙動の解明

壁面に付着する気液二相噴流における気泡挙動の解明を目的とした研究。噴流は、近傍に物体が存在すると物体側へ曲がる性質（壁面付着、コアンダ効果）を示します。このような条件下での気泡の挙動や分布を把握することは、水処理施設などにおける装置効率の改善に資するものです。（右写真：黒く見えるのは気泡）



② 流体现象の視覚認知と脳活動の解析

流体现象の図が人間にとってどの程度複雑に認知されるかを明らかにするため、脳波測定を行っています（右写真）。流体が生み出す模様と、コンピューターによるランダムパターンを見た際の脳波を比較し、流体现象に特有の脳活動の特徴を捉えることを目的としています。



研究室の雰囲気

コアタイムは設けていませんが、みんなしっかり平日の日中に頑張って活動しています。

学生の卒業後の進路 流体力学の仕事に限らず、様々な産業・職務で活躍しています。

研究室を志望する方へ 研究成果は積極的に発信しています。特に研究を頑張った学生には、発表のために海外渡航という貴重な機会もあります。流体现象を通し、自分の手で世界最先端をつかみたい人を歓迎します。



和気あいあいとした研究室です！

研究室への問合せ

ando@mach.mie-u.ac.jp （安藤先生）

takahashi@mach.mie-u.ac.jp（高橋先生）

研究室紹介動画は
こちらから





電気電子工学専攻 電気システム工学講座
磁気システム研究室

2026年2月取材

准教授 藤原 裕司 先生

博士(工学/名古屋大学、1997年)。名古屋大学工学部電気学科卒業(1993年)。名古屋大学大学院工学研究科電子工学専攻博士後期課程修了(1997年)。同年、三重大大学に着任。助教等を経て現職。2000年度在外研究員(ドイツ・レーゲンスブルグ大学)。専門は磁性薄膜。

エピソード

奈良県出身。小学生の頃から電子工作やプログラミングに親しんできました。大学院では磁性薄膜の研究室に配属。仲間たちは研究室で実験していましたが、私は磁性アモルファス薄膜の構造解析のため、年に数回つくば市の高エネルギー加速器研究機構(KEK)の放射光実験施設に通って実験を行っていました。設備の利用時間が限られていたため、48時間連続で実験することも。現在も磁性薄膜を研究していますが、最近は簡易的な計測器の開発にも興味を持っています。

趣味は走ること。フルマラソン完走経験があり、現在も時折りジョギングを楽しんでいます。

研究室概要

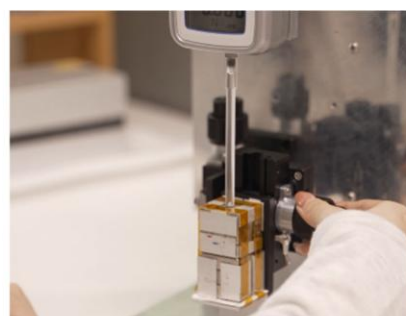
磁性薄膜の構造制御とセンサ応用の研究

本研究室では、非常に薄い磁石の膜(磁性薄膜)をつくり、その性質を調べる研究を行っています。こうした薄膜は、データを記録する装置や、周囲の変化を測るセンサなどに利用されています。特に、材料のつくり方や内部構造の違いによって磁気の種類がどのように変わるかを明らかにし、より性能の高い材料の開発を目指しています。また、磁場によってわずかに形が変わる性質を活かしたセンサへの応用にも取り組んでいます。

動画で紹介している研究について

簡易磁力計の開発

磁性材料は様々な分野で広く利用されており、様々な場面で磁力計による磁気特性の評価が必要にですが、一般的な磁力計は非常に高価です。そこで、市販のネオジム磁石と安価なフォースゲージを用いた磁力計を開発しています。測定の原理は非常に簡単で、安価に製造できるため、産業界のみならず初等・中等教育機関で利用してもらうことで、将来の理系人材育成にも寄与できると考えています。

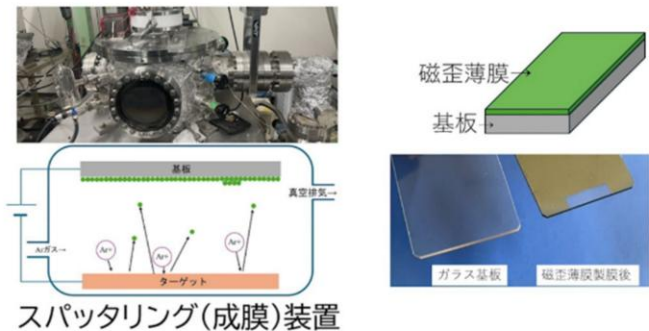


簡易磁力計を使った磁気特性
評価実験の様子

磁気ひずみを利用した薄膜センサの開発

磁場をかけるとわずかに形が変わる「磁気ひずみ」という性質を持つ薄膜材料を用いて、センサの開発を行う研究です。Feを含む軟磁性薄膜に磁場を加えたときの形状や電気的な変化を測定し、その特性を詳しく評価します。これにより、小さな変化を高い精度で検出できるセンサ材料の実現を目指します。さらに、より大きな変化を示す新しい材料の開発にも取り組みます。

磁歪薄膜の磁気特性制御



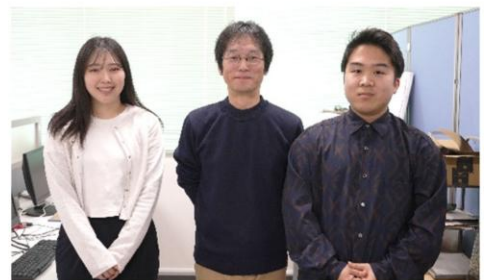
研究室について

コアタイムは設けず、学生の自主性に任せています。ただし、毎週のミーティングでは成果を厳しく評価します。国内外の学会や国際会議、学術論文など、積極的な発表を重視した研究教育を実施しています。



学生の卒業後の進路

学部卒業後は、大学院(博士前期課程)へ進学する学生が多くいます。修了後は、県内外の企業に就職しています。就職先は、電気系メーカー、自動車関連企業などが多いです。



動画に出演している皆さんと

研究室を志望する方へ

本研究室では、磁性材料や薄膜材料の物性評価を通じて、センサやデバイス応用につながる研究を行っています。実験だけでなく、得られた結果を物理的に考察し、「なぜそうなるのか」を理解することを大切にしています。材料、磁気、計測、ものづくりに興味があり、自分で考えながら研究に取り組む意欲のある方を歓迎します。



機材がひしめく実験室

研究室への問合せ
fujiwara@phen.mie-u.ac.jp (藤原 裕司先生)

研究室紹介動画は
こちらから





電気電子工学専攻
情報通信・フォトリニクス講座
高周波メタフォトリニクス研究室

2025年12月取材

教授 村田 博司 先生

博士(工学)大阪大学。大阪大学基礎工学部電気工学科卒業後、同大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程(博士前期課程)を修了。同研究科物理系専攻博士課程(博士後期課程)に進学後、中途退学、大阪大学助手に任官。1998年に博士号を取得。大阪大学基礎工学部助手、同大学大学院基礎工学研究科講師、助教授、准教授を歴任。その後、名古屋工業大学大学院工学研究科非常勤講師、ドイツ・デュイスブルク＝エッセン大学客員教授を経て、2018年より現職。専門分野は光エレクトロニクス、マイクロ波フォトリニクス、光・無線融合通信システム。

エピソード

研究者の道に進んだきっかけは、大学生のときに「光集積回路」の研究に出会ったことです。修士・博士課程では新しい構造の光集積回路スイッチを提案・試作し、特許も出願。新しいモノを創ることの面白さを学びました。その後は超短光パルス生成、光ファイバ通信、5G無線など研究分野を広げ、日欧国際連携プロジェクト(HORIZON2020)ではリーダーとして5カ国・11チームの研究を取りまとめ、国際標準データベース登録に貢献しました。趣味は読書と、奉職してから始めたサキソフォーン演奏です(こちらの研究成果はまだまだです)。

研究室概要

最先端無線・光融合フィールド通信実験からディスプレイ、インフラ非破壊診断へ

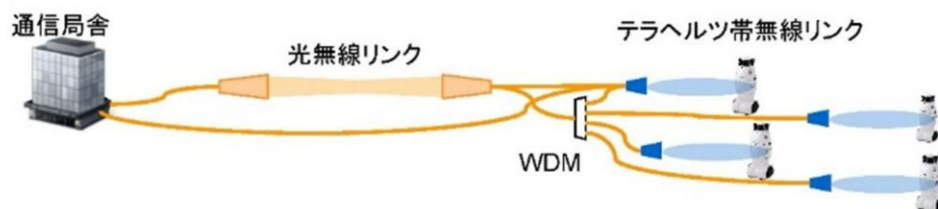
移動体無線通信は、この30年ほどで目覚ましい進歩と発展を遂げ、2024年の国内でのスマートフォン・携帯電話の登録台数は2億台を超えています。これからは、より高速・大容量な通信が可能な次世代 Beyond-5G(6G)無線の研究開発・社会実装とともに、無線通信をベースとしたDX化が進みます。この次世代無線においては、ミリ波・THz波という高い周波数の電波と光ファイバー通信との融合・連携が必須となっています。このための光電融合技術の研究を行っています。

動画で紹介している研究について

光無線通信で100Gbpsの大容量通信を実現

2024年秋、民間企業各社と連携して、鈴鹿サーキットにおいて先進的な無線通信フィールド実験を行いました。この実験では、「光無線通信機」という新しい無線機器と光ファイバ回線を用いて、鈴鹿サーキットでのレースの様子を4台の4Kカメラで撮影した映像を、非圧縮で低遅延に伝送することに挑戦し

ました。350m離れた地点に設置した2台の光無線通信機と光ファイバ回線をシームレスに接続することで、4チャンネルの4K映像を、約55km離れたケーブルテレビ事業者の本社ビルまで、非圧縮・低遅延でライブ伝送することに世界で初めて成功しました。光ファイバの敷設が難しい場所でも、複数の高精細映像を視聴者に届けられることを実証しました。



自律移動型警備ロボットとのフィールド実証実験

自律移動型警備ロボット(SEQSENSE 社製)の筐体内部に本プロジェクトで開発したテラヘルツ帯トランシーバを実装し、時速約 1.5km で移動中のロボットと固定基地局の間で双方向高速通信実験を行いました。三重大学講堂・三翠ホールのホワイエに基地局を設置してアンテナを調整し、幅約 1m・長さ 20m の通信可能エリアを設定しました。その結果、ロボットが走行中でも高速データ通信が可能であることを実証しました。この実験では、実験局免許の関係で最大通信速度は 4.5Gbps 程度でしたが、トランシーバの性能としては 25Gbps 級の双方向通信が可能であることを確認しています。



学生の卒業後の進路

自動車関係企業、電機メーカー、精密機器・計測機器メーカーに就職する諸君が多いですが、共同研究を行っている通信関係企業等に就職する学生もいます。

研究室を志望する方へ

研究の醍醐味は、誰も成し遂げていないことへの挑戦です。そのためには理論・実験・考察を繰り返し、研究のポイントを的確に整理して人に説明する力が欠かせません。私の研究室では、計算や実験だけでなく、プレゼンテーションや議論も重視しています。興味ある学生さん、ぜひ見学にいらしてください。



動画もぜひご覧ください！

研究室への問合せ
murata@elec.mie-u.ac.jp (村田先生)

研究室紹介動画はこちらから





電気電子工学専攻
量子・光ナノエレクトロニクス講座
ナノオプティクス研究室

2026年2月取材

准教授 もとがいと 元垣内 敦司 先生

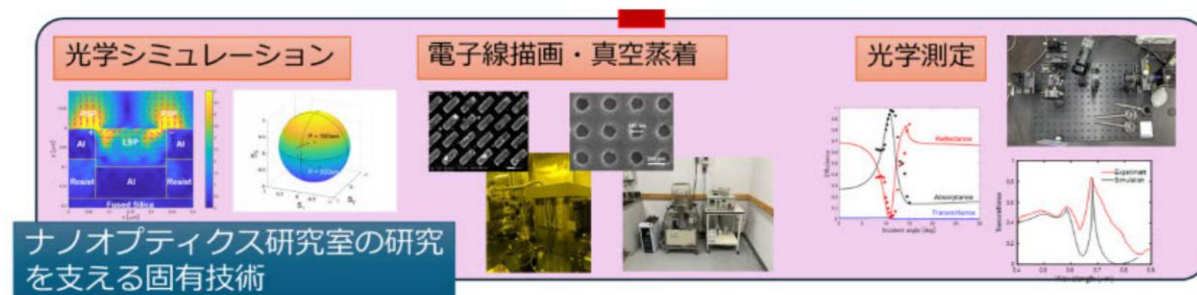
静岡大学大学院工学研究科電子応用工学専攻博士課程を修了、博士号(工学)を取得。1998年に三重大学工学部電気電子工学科助手に就任。2006年に大学院工学研究科電気電子工学専攻助手、2007年助教、2012年准教授を経て現在に至る。研究分野はナノ光学、プラズモニクス、メタ表面、オプトエレクトロニクス。岐阜県出身。

エピソード

現在のプラズモニクスやメタ表面の研究に関わるきっかけは、2002年にNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の産業技術研究助成事業に採択され、電子線描画装置と出会ったことです。もともと半導体研究に携わりながら、光に関する研究への思いを抱いており、ナノレベルの周期構造で光の伝搬を制御したいという目標を、電子線描画装置とともに実現すべく研究を続けてきました。写真撮影、照明デザイン、絵画鑑賞も好きで、光学研究と並行して写真撮影や照明デザインもできる研究者を目指しています。

研究室概要 ナノオーダーのメタ表面と光の相互作用に関する新しい物理現象の解明と、それを利用した新規光学デバイスの創成

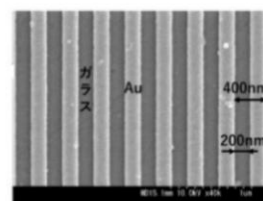
本研究室は、ナノオーダーのメタ表面と光の相互作用に関する物理現象の解明と光デバイス創出を目標とする。電磁界シミュレーション、微細加工、光学測定を基盤に設計・作製・評価を一体的に推進しています。金属回折格子センサーやアルミニウム・メタ表面による紫外域の偏光制御デバイス、紫外光吸収体、キラルメタ表面開発に取り組み、電子線リソグラフィを用いたもの作りに関する部分は名古屋大学と共同研究を行っています。



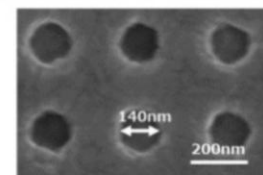
動画で紹介している研究について（代表的なもの）

金属回折格子を用いた表面プラズモンセンサーの開発

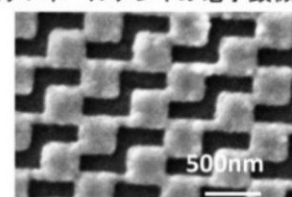
金属の表面に細かい溝を規則正しく並べた構造に光を当てると、金属中の電子が光と強く反応する現象が起こります。このときの反応の仕方は、周囲の液体や気体の性質によって変化します。その変化を光の強さとして測定することで、物質の違いを調べるセンサーとして利用できます。



表面プラズモンセンサーの電子顕微鏡像



Alナノホールアレイの電子顕微鏡像



Alキラルメタ表面の電子顕微鏡像

アルミニウム・ナノホールアレイによる紫外域の偏光選択型吸収体の研究

金属のナノ周期構造は形やサイズを変えることで光の吸収反射や吸収が変化することが知られています。例えば、丸穴・矩形柱など、形やサイズを変化させることで、光の特性も変わります。私たちは、このような光の特性の変化を科学的に解析し、そのメカニズムを明らかにする研究を行っています。

研究室の過ごし方

定例行事への出席と毎日2～3時間の来室を基本としていますが、実験や対面ミーティング以外は自宅でも研究できる環境が整っており、就職活動などと両立しながら柔軟に活動する学生が多くいます。学生部屋は院生と学部生がフラットに交流できるスペースにしました。

学生の卒業後の進路 トヨタグループ各社、住友電気工業、東海旅客鉄道、村田製作所、富士電機、デンソー、パナソニック、三菱マテリアル、マキタ、ファナック、ヤマハ発動機など。進路は多岐にわたり、光関連分野に限らず幅広い業界へ進んでいます。

研究室を志望する方へ

2024年度に独立したばかりの小さな研究室ですが、4年生から一生懸命コツコツと研究を進めていくと、修士2年生が終わるころには自分で学術論文が書けるほどの成果を挙げることができます。私が指導教員になった2017年度以降、ほぼ毎年女子学生が1名以上在籍しています。男性、女性、関係なく光に興味があれば、研究ができる環境が整っています。



研究室への問合せ
motogaito@elec.mie-u.ac.jp（元垣内先生）

研究室紹介動画はこちらから





電気電子専攻 量子・光ナノエレクトロニクス講座 量子回路テクノロジー研究室

(旧:物性物理学研究室)

2026年5月取材

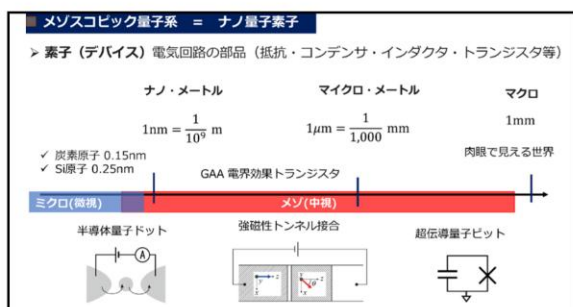
准教授 内海 裕洋 先生

博士(情報科学)。1996年東北大学工学部応用物理学卒業、2001年同大学院情報科学研究科博士後期課程修了。

博士(情報科学)。マックス・プランク微細構造物理研究所常勤研究員、カールスルーエ大学博士研究員、理化学研究所基礎科学特別研究員、東京大学物性研究所助教を経て、2010年より現職。

エピソード 私が子どもの頃、科学者は憧れの職業であり、私も将来は世の中の役に立つ技術者になりたいと考えていました。高校生の頃には、NHKスペシャル「電子立国 日本の自叙伝」や読書感想文の課題図書であった西澤潤一著『独創は戦いにあり』に触れ、微細な素子や集積回路が切り拓く世界に、日本の将来を感じました。大学の卒業研究で、指導教官から「1ミリの1000分の1以下の領域に電子を閉じ込めた半導体量子ドット」をテーマとして提案されたことが、「メゾスコピック系」に触れるきっかけとなりました。最初は「小さくして何が面白いのだろう」と思いましたが、一見単純に見える対象の奥深さと豊かさに魅了され、以来30年近くこの分野に取り組んでいます。当時は、後にハードディスクの磁気ヘッドに応用される強磁性トンネル効果や、超伝導量子ビットのコヒーレント振動など、人工微細構造に特有の量子現象が次々と発見されていました。その中で私は、「揺らぎ」が雑音として素子の性能を左右するだけでなく、量子や非平衡統計に関わる深く有益な情報を内包していることに強く惹かれました。それ以来、さまざまな角度からこの問題に向き合い続けています。

研究室概要 メゾスコピック系における極小デバイスの物理と応用の研究



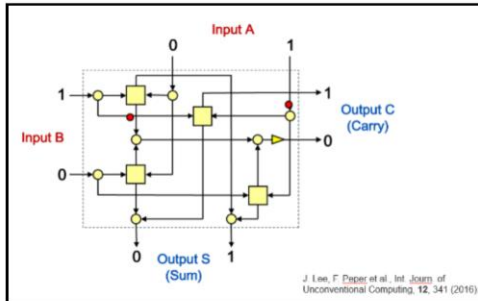
「メゾスコピック系」とは、原子より大きく目に見えるより小さい中間サイズの世界を指します。スマートフォン等に使われる10ナノメートル級の極小素子では、電子が数個～1個の単位で流れ、波として振る舞う「量子力学的効果」が顕著になります。当研究室は、量子ポイントコンタクトや量子ドットといった量子素子の特性や、それらを集積した際に現れる機能を、数式

やコンピュータを用いて理論的に探求しています。特に、量子回路で生じるノイズが「揺らぎの定理」に従うことを明らかにし、情報理論の観点から評価。さらに情報と熱力学の関係、いわゆる「マクスウェルの悪魔」の工学応用にも挑戦しています。熱揺らぎでランダムに動く粒子に回路の経路を探させる「ブラウン型計算機」などを通じ、計算機の発熱を物理法則の限界までどこまで減らせるかに挑んでいます。

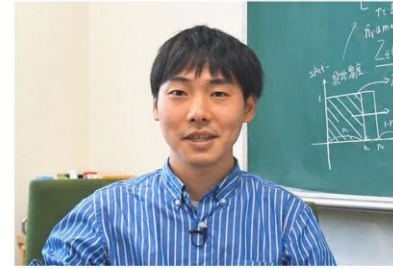
動画で紹介している研究について

ブラウン粒子を用いた省エネルギーな新計算原理の構築

生成AIなどの普及に伴う莫大な消費電力の増加を見据え、省エネルギーな新しい計算原理の構築を目指しています。熱揺らぎによって自発的に駆動する「ブラウン粒子」を計算資源として活用し、素子の



の動作にかかる時間や消費エネルギーを粒子



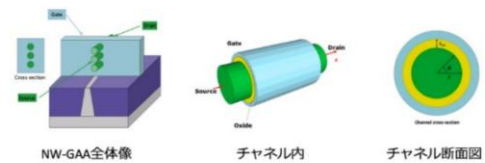
特任助教 中出 捷(しょう)先生

の軌跡レベルで解析。一次元量子効果を用いることで、外部からのエネルギー注入なしに粒子を自発移動させるなど、時間的・エネルギー的に効率の良い情報処理の基礎研究に取り組んでいます。

次世代「GAA構造」半導体の量子輸送特性の解析

半導体業界で微細化の鍵として、いま注目を集めている次世代のトランジスタ構造「GAA (Gate-All-Around)」における、電子の輸送特性の理論的解析を行っています。量子効果が顕著となるナノデバイスに対し、量子輸送を記述する代表的なモデルである「量子ポイントコンタクト(QPC)理論」を適用し、シュレディンガー方程式を用いて電子の透過確率や量子コンダクタンスを解析的に導き出し、その特性の深い理解を目指しています。

QPC理論をNW型GAA構造に適用し、輸送特性(量子コンダクタンス)を理論的に記述する



主な進路 富士電機、豊田合成、村田製作所、豊田自動織機、伊藤忠テクノソリューションズ、関西電力など

研究室を志望する方へ 研究を進めるにつれて、その奥深さと広がりを実感できる分野です。基礎から応用まで幅広い課題を含んでおり、物理そのものに興味がある人はもちろん、新素子の発明や技術の創出に関心がある人も楽しめると思います。興味をもった学生は、ぜひ当研究室を訪ねてください。



研究について進捗報告会



研究室への問合せ

utsumi@phen.mie-u.ac.jp (内海先生)

研究室紹介動画は
こちらから



電子情報工学専攻 半導体工学講座
半導体計算科学研究室

2025年11月取材

教授 秋山 亨 先生

プロフィール 博士(理学)筑波大学。筑波大学第一学群自然科学類卒業、筑波大学大学院物理学研究科博士課程修了。NTT物性科学基礎研究所リサーチアソシエイトを経て、2003年より三重大学に勤務。助教、准教授を経て、2024年より現職。専門は計算物性物理学、半導体結晶工学。

エピソード

栃木県宇都宮市出身。中学生のときに塾の先生から「トンネル効果」の話を聞いて物理に興味を持ち、大学では物理学を専攻しました。大学時代にコンピュータによる原子・分子の解析を目にして数値シミュレーションの面白さに惹かれ、大学院では半導体のシミュレーション研究に取り組みました。現在もその分野を中心に研究を続けています。趣味は水泳と機械いじりで、通勤用自転車の整備は自分で行っています。

准教授 河村 貴宏 先生

プロフィール 博士(工学・九州大学)。九州大学で機械航空工学を学び、同大学院航空宇宙工学専攻博士課程を修了。大阪大学での特任(CREST)研究員を経て、2010年より三重大学助教、2025年から現職。ワイドギャップ半導体の結晶成長と物性を計算機シミュレーションで研究しています。

エピソード

山口県出身。大学では機械系を専攻していましたが、大学院では半導体分野の研究に取り組み、そのまま博士号を取得しました。自分のペースで裁量をもって進められる計算機シミュレーションの研究が性に合っていたのだと思います。

研究室概要

計算科学的手法による半導体物性および薄膜形成の研究

半導体材料を対象としたシミュレーション研究を行っています。原子スケールに迫る微細な構造を持つ現在の半導体デバイスについて、原子レベルの物理法則に基づき、半導体を構成する原子や電子の運動を詳細に計算することにより、実験では直接観測することが困難な微視的な物理現象を明らかにできる点が当研究室における研究の大きな特徴です。



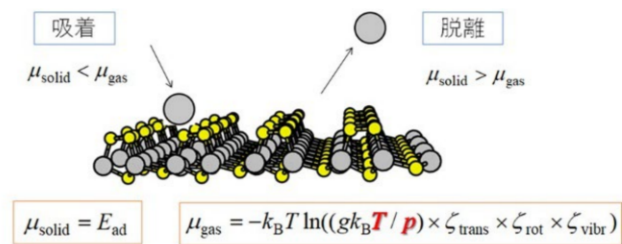
材料科学計算システム

現在の研究について

エピタキシャル成長機構に関する研究

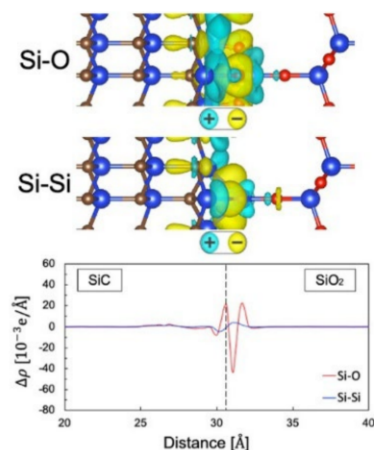
半導体材料における結晶成長手法の一つにエピタキシャル成長があります。この手法による薄膜の形成機構を理解するには、基板表面の構造に加えて、原子の吸着・脱離

およびマイグレーション等の理解が不可欠であり、これらは実験条件(温度および圧力)に依存します。温度や気相の効果を考慮する方法として、化学ポテンシャルを用いた計算手法を考案し、様々な材料における表面構造予測や吸着・脱離過程などの成長素過程に対して適用しています。



半導体表面・界面形成および表面・界面物性

金属-酸化物-半導体(MOS)界面は、電界効果トランジスタのデバイス特性を左右する重要な要素です。Si/SiO₂のみならずSiC/SiO₂についても、パワーデバイス作製において盛んに研究がなされています。両者は熱酸化によって形成されることから、そのプロセスの理解と制御が重要な課題となっています。当研究室ではMOS界面の電子状態を評価しており、SiC/SiO₂における双極子の形成が電子状態に影響を及ぼし、面方位依存性を持つことを確認しています。



SiC/SiO₂界面における
電荷移動の様子

研究室の雰囲気など

コアタイムは設けず、学生の自主性に任せています。ただし、毎週のミーティングでは成果を厳しく評価します。国内外の学会や国際会議、学術論文など、積極的な発表を重視した研究教育を実施しています。

主な進路 半導体関連企業をはじめとして、製造業系の企業、商社に就職する学生もいます。



研究室HP

研究室への問合せ

akiyama@phen.mie-u.ac.jp

(秋山亨先生)

tkawamura.mach@mie-u.ac.jp

(河村貴宏先生)



応用化学専攻 物理化学講座
量子ナノ機能化学研究室 八尾グループ

2025年10月取材

教授 八尾 浩史 先生

博士(理学)北海道大学、修士(工学)大阪大学。大阪大学基礎工学部合成化学科卒業後、同大学大学院基礎工学研究科化学専攻修士課程を修了。1994年に北海道大学理学部助手に就任し、在職中に博士号を取得。1999年から姫路工業大学理学部助教授、2004年から兵庫県立大学物質理学研究科助教授・准教授を経て、2017年より現職。

エピソード

私の研究テーマは常に「光」。きっかけは大学時代、レーザー光を用いて有機分子の反応過程を調べる研究室(又賀昇教授)に廻ります。光化学の面白さを学びましたが、「もの(材料)」への欲求もあり、卒業後は一般企業の研究部門へ。超微粒子の作製と光応用の研究に携わり、ここで「ナノ物質」と「光」が私の中で融合しました。その後、先輩からの誘いでアカデミアへ復帰。民間→国立→公立→国立と辿ります。(余談ですが退職届を3回書いています)簡単に転職できる時代ではなく不安でしたが、「えいやっ」と踏み出した決断が現在につながっています。

趣味はビートルズやマーラーを聴きながらのドライブと温泉巡り。

研究室概要 ナノ構造体特有の「光機能性」に関する研究

有機物・無機物・半導体といった多様な物質を、ナノメートル(10^{-9} メートル)という極めて微細なスケールで制御し、その領域特有の光機能性を解明することを目指しています。

溶液化学的手法を基盤として、様々なナノ粒子やクラスターを精密に作製し、それらが示す独自の光学特性について物理化学的な視点から研究を進めています。ナノスケールの「ものづくり」では、サイズや形状を自由かつ高精度に制御することが不可欠です。原子や分子レベルでの精密な操作技術により、ナノ構造体の高機能化を実現しています。

こうした研究を通じて、ナノスケール特有の新しい光機能の発現メカニズムを解き明かし、物質が示す未知の可能性を探求しています。

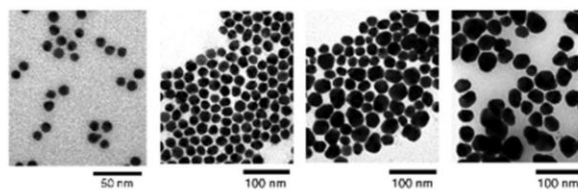


動画で紹介している研究について

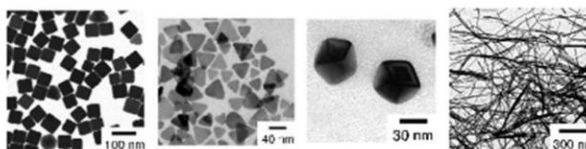
ナノ粒子の形状制御による光吸収特性の解析

金属のナノ粒子は形を変えることで光の吸収が変化することが知られています。例えば、球形・三角形・四角形など、形やサイズを変化させることで、試料の色も変わります。私たちは、このような色の変化を科学的に解析し、そのメカニズムを明らかにする研究を行っています。

様々な大きさや形をした金属(Au・Ag)ナノ粒子・半導体(WO_{3-x})ナノワイヤー



様々な大きさを持ったAgナノ粒子(電子顕微鏡像)

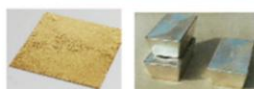


様々な形を持った金属・半導体ナノ粒子

ドーピングによる半導体の着色機構の解明

半導体に異種原子をドーピングすることで色が変化することはよく知られています。私が扱っているのは、酸化チタン(TiO₂)にタングステンをドーブした試料です。通常は白色のTiO₂が黒色に変化します。その原因を分光学的手法で調べ、どのような電子状態の変化が起きているのかを明らかにしています。

大きさ・形が変わると粒子の色が変化する



塊の金(Au)や銀(Ag)は光沢を持つ。
..... ナノサイズでは？



様々な色を示すAu・Agナノ粒子
(大きさ、または形が異なるだけです)

学生の卒業後の進路

大同特殊鋼、KOBELCO、日本製鉄、YKKAP、東洋製罐、中部電力、住友電装、旭ダイヤモンド、トヨタシステム、トヨタバッテリー、リンナイ、KIOXIA、ノリタケなどの一般企業や三重県庁、三重県警などに就職しています。

研究室を志望する方へ



留学生とは英語で会話！

私自身が研究を面白く、楽しく思わなければ、その面白さ・楽しさは相手には伝わりません。私はその面白さ・楽しさを(難しい所も含めて)皆さんに伝えたいと思っています。興味ある学生はぜひ当研究室に来てください。

研究室への問合せ

yao@chem.mie-u.ac.jp (八尾先生)

研究室紹介動画はこちらから





応用化学専攻 無機分析化学講座

無機素材化学研究室

2025年10月取材

教授 石原 篤 先生

京都大学工学部石油化学科卒業。同大学大学院工学研究科石油化学専攻博士後期課程修了。工学博士(京都大学)。2006年より三重大学大学院教授。専門は無機素材化学、石油精製、石油化学、石炭化学、触媒化学、環境触媒。現在は、重質炭素資源の触媒変換、新規多孔性材料の創製、階層構造をもつ多孔質複合体の開発、環境触媒を用いた燃料製造技術、炭素資源および二酸化炭素利用技術などの研究に取り組んでいます。

(※) 石原先生は令和7年度で定年退職され、現在は特任教授として研究室に残り、研究活動を継続されています。

教授 橋本 忠範 先生

(地域イノベーション学研究科 工学イノベーションユニット)

三重大学学士課程、修士課程・博士前期課程を修了後、京都大学大学院博士後期課程修了。工学博士(京都大学)。専門は無機材料化学。京都大学化学研究所助手、三重大学工学部助手、三重大学工学研究科助教を経て、2014年より同研究科准教授を務めました。2024年より三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授として現職。現在はpH応答性ガラス電極の開発やセルフクリーニングガラスの開発を中心に研究を進めています。



研究室概要 無機素材を生かした化学を展開

具体的には、炭化水素、巨大分子、バイオマス、廃棄物処理のための固体触媒開発、地球環境改善のための触媒や水素製造触媒をはじめとする新しい多孔性固体触媒の調製と反応性、セルフクリーニングガラスやpH応答ガラスなどの新しいガラスの調製と光学特性に関する研究を行っています。

動画で紹介している研究について

① Au含有 Cu-CeO₂-ZrO₂ 触媒による

エタノール-CO₂ 反応の高機能化

→ 役に立つ領域: 脱炭素社会・水素製造・資源循環

エタノールとCO₂からH₂とCOを生成するDRE反応に対し、Au添加Cu-CeO₂-ZrO₂触媒を含浸法で調製。ゾルゲル法と同

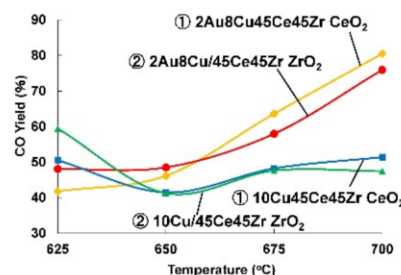


Fig. 5 Change in CO yield with temperature.

等の高活性・高CO収率を確認し、触媒調製法と性能の相関を明らかにした研究。CO₂削減と水素製造を同時に達成できる可能性があります。

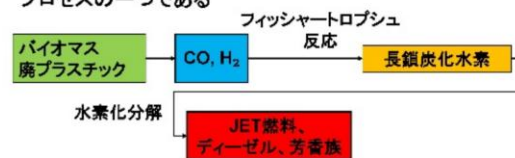
② 多元機能触媒によるジェット燃料留分の高選択 →役に立つ領域:航空燃料、脱炭素型エネルギー、 廃プラスチック利用

Pt、ゼオライト、アルミナを組み合わせた多元機能触媒を作製し、n-ヘプタデカンの水素化分解を評価。295℃でC8-C16留分を高い選択率で生成し、SAF製造に有望な触媒設計指針を示した。CO₂排出削減・廃棄物再利用・航空燃料の脱炭素を支える中核技術です。

背景

・近年、バイオマスからガソリン、ディーゼルを製造する研究が活発

・水素化分解は長鎖炭化水素を輸送用燃料へ変換するプロセスの一つである



水素化処理により高品質な燃料が生成可能

③ 高速応答pHガラス電極材料の開発→役に立つ領域:医療・食品・水質管理・化学プラント

電子伝導性Fe₂O₃含有ガラスを用いて作用電極の応答速度を大幅に改善。従来電極の課題である内部液漏出を防ぐ比較電極の新構造も検討し、次世代pHセンサーの高機能化を目指す研究。安心・安全を支える“次世代センサー材料”として社会実装に近い研究です。



学生の卒業後の進路

出光興産、コスモ石油、日本ガイシ、日本特殊陶業、セントラル硝子、リンナイ、住友電装、住友理工、浜松エレクトロニクスなど

研究室を志望する方へ

無機化学だけでなく、有機化学・物理化学など基礎化学全般を学び、応用化学に繋げていく領域を研究しています。興味がある方はぜひ見学に来てください。

研究室への問合せ

hasimoto@chem.mie-u.ac.jp(橋本先生)

ishihara@chem.mie-u.ac.jp(石原先生)

研究室紹介動画は
こちらから



応用化学専攻 無機分析化学講座
分析環境化学研究室 勝又グループ

2026年2月取材



准教授 勝又 英之 先生

博士(理学)筑波大学。筑波大学大学院博士課程(化学研究科)を修了。三重大学工学部助手、三重大学大学院工学研究科助手、同助教を経て、カリフォルニア工科大学Visiting Associateを務める。三重大学大学院工学研究科准教授、現在に至る。専門分野は分析化学、環境化学、触媒化学。

エピソード

高校3年生で学んだ有機化学の奥深さに心を奪われ、夢中で教科書を読み返したことが、大学で化学を専攻する原点でした。学生時代、同じ研究室で試行錯誤を重ねる中で出会った手嶋紀雄先生(現・愛知工業大学)の研究への情熱と姿勢に強く憧れました。手嶋先生と一緒に研究に打ち込んだ日々は、今の進路を決定づけたかけがえのない時間です。

研究室概要

見えない汚染を測り、分解する——持続可能な社会を支える分析環境化学

分析環境化学研究室では、環境問題の解決を目指した研究を行っています。空気や水の中には、ごくわずかな量でも生きものや人に影響を与える化学物質が含まれていることがあります。私たちは、そうした物質を正確に測る高性能な分析技術の開発に取り組んでいます。また、有害物質を分解して無害化する方法や、二酸化炭素を役立つ物質に変える技術、太陽光を利用した水素エネルギーの生成など、環境にやさしい新しい技術の研究も進めています。持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

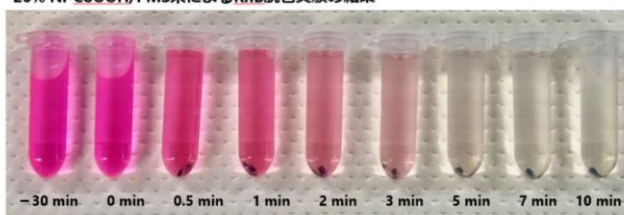


動画で紹介している研究について

コバルト系酸化剤による難分解性有機物の
高速分解

川や海に残る分解されにくい有機物を効率よく取り除く方法を研究しています。強い酸化力をもつ薬剤(PMS)を活性化する触媒としてコバルト化合物に注目し、ニッケルを加えて改良。

20% Ni-CoOOH/PMS系によるRhB脱色実験の結果

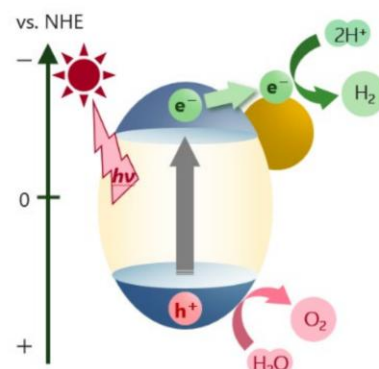


RhB(20 mg/L)は5分間で完全に脱色された

その結果、最適な割合では有害な染料ローダミンBを5分以内にほぼ完全に分解することができました。環境にやさしい水質浄化技術への応用を目指しています。

光で水素をつくる——多孔質材料との複合化で光触媒の性能を2倍に

太陽光を使って水から水素をつくる「光触媒」の性能向上に取り組んでいます。可視光に反応する ZnIn_2S_4 という材料に、多孔質材料ZIF-8を組み合わせることで反応効率の改善を図りました。その結果、最適な割合で複合化すると、水素の生成量が従来の約2倍に向上しました。環境にやさしいグリーン水素製造技術への応用を目指しています。

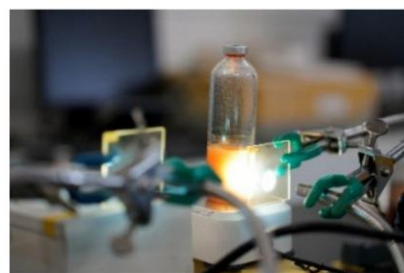


学生の卒業後の進路

学部卒業後は、多くの学生が大学院(博士前期課程)へ進学しています。修了後は、県内外の機械・自動車関連をはじめとする製造業や素材・環境分野の企業を中心に、研究開発や技術職として幅広く活躍しています。

研究室を志望する方へ

分析環境化学研究室では、学生主体で基礎から応用までを重視し、水質浄化や水素生成などの環境・エネルギー課題に、分析化学の視点から取り組んでいます。少しでも興味を持たれた方は、ぜひ一度研究室へ見学にお越しください。



研究室への問合せ
hidek@chem.mie-u.ac.jp (勝又先生)

研究室紹介動画は
こちらから



応用化学専攻 生命化学講座
分子生物工学研究室

2025年11月取材



教授 湊元 幹太 先生

東京大学理学部生物化学科卒業(1998年)。名古屋大学大学院人間情報学研究科物質・生命情報学専攻博士後期課程修了(2002年)。博士(学術)(名古屋大学、2002年)。三重大学助手、助教、講師、准教授を経て、2020年12月より現職。専門はリポソーム工学、生物化学、生物物理学、分子生物学。

准教授 鈴木 勇輝 先生

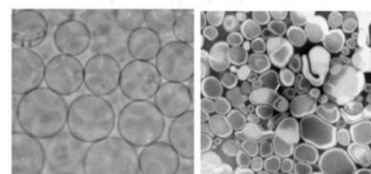
京都大学総合人間学部総合人間学科学士課程修了(2007年)。京都大学大学院生命科学研究科統合生命科学専攻修士課程(博士前期課程)修了(2009年)。同大学院生命科学研究科統合生命科学専攻博士課程(博士後期課程)修了(2012年)。博士(生命科学)(京都大学、2012年)。専門はナノバイオサイエンス、DNAナノテクノロジー、生物化学、生物物理学。



研究室概要

メディカル・ライフサイエンスに資する分子生物工学

脂質膜を再構成して人工細胞を作製し、膜タンパク質の提示など機能化を研究。抗体検出材料など診断用途への応用も検討しています。人工細胞の構造や性質を解析し、薬品や化粧品など応用展開も視野に入れて研究中。(湊元先生)



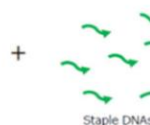
人工細胞膜 模倣素材

DNAを素材にしたナノスケールの「ものづくり」に取り組んでいます。ナノ材料としてのDNAの魅力は、塩基配列というかたちで「分子そのもの」に「デザインした構造に組みあがるための情報」をプログラムできる点にあります。このため、望みの構造の部品となるDNAを混ぜ合わせるだけで、その形が自

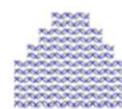
DNAナノ構造体の設計方法: DNAオリガミ法



Scaffold DNA



Staple DNAs



DNAナノ構造体の特徴

- ・分子レベルで形状の設計が可能
- ・DNAの化学修飾を利用した機能化が可能
- ・さまざまな刺激応答性を設計可能

構造DNAナノテクノロジー

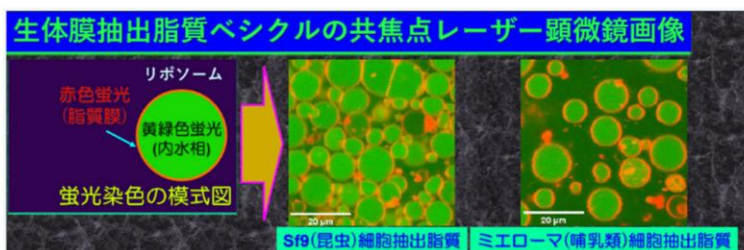
発的に組みあがっていきます。

このような技術をもとに、DNAを主素材としたさまざまな分子装置や分子機械、そして、それらを制御するための仕組みについて開発研究を進めています。(鈴木先生)

動画で紹介している研究について

昆虫細胞や哺乳類細胞から脂質を抽出、生体膜由来リポソームを再構成。糖鎖や膜タンパク質など天然の膜成分を高い生体適合性で取りこみ、機能評価を行ったうえで、新型ワクチン投与への応用も目指しています。

リポソーム・人工細胞膜の研究



脂質膜変形の可逆操作に向けたDNAナノ構造体の設計と創製

DNAの自己集合能を利用して、リポソーム膜の変形制御に資する分子機械を創製。pH変化や特定の核酸分子に応答して形状変化する分子アクチュエータを設計・構築し、その動作および集合化を介した脂質膜変形の誘導や制御を狙っています。



学生の卒業後の進路

学部卒業後は、大学院(博士前期課程)へ進学する学生が多くいます。修了後は、県内外の企業に就職しています。就職先は、医薬品・食品・化粧品・日用品・化学系メーカーに加え、製造業全般に広がっています。中には、企業で勤務しながら博士後期課程に進学し、研究を継続する人もいます。



研究室を志望する方へ

細胞の分子や構造、機能の再構成や制御、原理や応用に興味がある方、ぜひ一緒に研究しましょう。

研究室への問合せ

tsumoto@chem.mie-u.ac.jp (湊元 幹太先生)

ysuzuki@chem.mie-u.ac.jp (鈴木 勇輝先生)

研究室紹介動画は
こちらから





**建築学専攻 建築講座
建築熱環境学研究室**

2026年5月取材

教授 永井 久也 先生

博士(工学)(神戸大学、1996年)。一級建築士。

1987年より株式会社 鴻池組本社技術研究所研究員として研究・開発に従事。1996年より名古屋大学大学院工学研

究科にて助手、同大学院環境学研究科助教授を経て、2002年より三重大学工学部助教授。その後、准教授を経て2011年より現職。

日本建築学会、空気調和・衛生工学会に所属。一般財団法人日本建築総合試験所建築防災計画評定委員会委員、日本ERI株式会社一般構造・設備委員会委員、省エネ評価委員会委員、認定機関・住宅型式性能認定機関及び試験機関等に係る委員会委員、一般社団法人日本サステナブル建築協会スマートウェルネス住宅等推進調査委員会委員を務める。専門は建築環境工学。

エピソード

子どもの頃から野球が好きで、ご多分に漏れず小学校から帰宅するとカバンを放り投げて公園で野球をしていました。大学進学時には建築家を志し、建築系の学科に入学しましたが、数か月で自分にはその才能がないことを悟りました。そこで、努力次第で一流を目指せると考え、エンジニアリングの方面へ進路を切り替えました。そのきっかけは、研究室の恩師である故・松本衛先生(神戸大学名誉教授)と出会ったことでした。これが自分にとって良かったのかどうかは、いまだ判断がつきません。ただ、松本先生との出会いがなければ、今の私はないことは間違いありません。

研究室概要 建築内外での熱的な環境問題、建築における省エネルギー手法の関係の研究

建築空間における快適性と安全性を、熱・エネルギーの観点から追求しています。人類がより文化的で快適な生活を営めるよう、建築の内外に関わる熱的課題を幅広く研究しています。

また、専門性を生かし、住宅を含む建築物の省エネルギー性能や、火災時の安全性評価を担う公的認定機関において、専門知識の社会還元にも取り組んでいます。

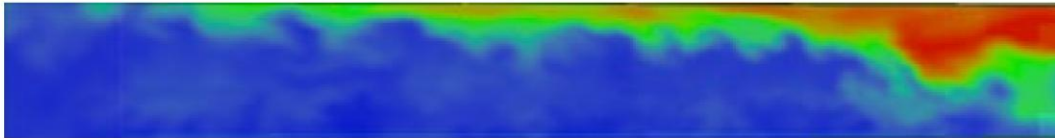


密集市街地街路空間の天空

研究について

建築安全区画における排煙性状解析

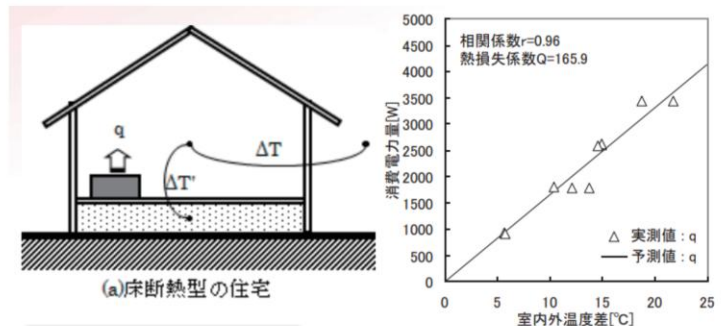
ある一定規模の建築物には、排煙設備の設置が義務付けられており、その方式には機械排煙と自然排煙に大別されます。本研究では、高層建築物には多用される回廊型の共用廊下の排煙性状をNIST(米国国立標準技術研究所)が開発したFDS(乱流モデル)を用いて解析を行っています。



居室から廊下へ漏煙した煙の様子 (カラー表示は紹介動画にてご覧いただけます)

建築物の断熱改修後の省エネルギー性能と温熱環境評価

建築物の断熱改修の目的は、冷暖房の省エネルギー化と、室内温熱環境の改善であるとされています。このうち、省エネルギー性能の評価は、居住者自身が経済的観点から比較的容易に把握できます。一方で、温熱環境の改善効果については、定量的な評価が難しいのが現状です。そこで本研究では、断熱改修を実施した建物について、省エネルギー量の評価に加え、室内の温湿度および放射環境を測定し、温熱環境改善の効果を定量的に評価することを目指します。



戸建住宅の簡易断熱性能測定法とその結果の例

研究室を志望する方へ

当研究室と寺島研、北野研の環境系3研究室の大学院生が共通の大学院生室を利用しており、大変賑やかな環境です。当研究室のゼミは毎週金曜日の午後に実施しています。年末には、研究室OBにも参加してもらって忘年会を行っています。新型コロナ騒ぎから実施しなくなりましたが、春と秋に実施していたBBQもそろそろ復活したいと思っています。



研究室への問合せ
nagai@arch.mie-u.ac.jp (永井先生)

研究室紹介動画は
こちらから





建築学専攻 建築構造系
(建築材料・施工・コンクリート工学)
三田研究室

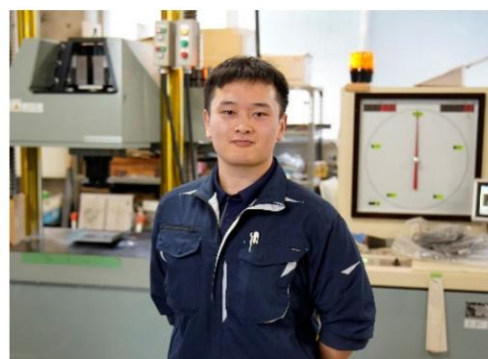
2025年12月取材

教授 三田 紀行 先生

東京都立大学工学部建築工学科卒業。東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程(博士前期課程)修了(1992年)。1992年4月から1993年3月まで東日本旅客鉄道株式会社に勤務。1993年より職業能力開発大学校建築校において助手、講師、准教授を経て、教授を歴任。2021年より現職。専門は建築材料学、コンクリート工学。

助教 孫 文可 先生

博士(工学) 神戸大学(2025年3月)。山口大学工学部知能情報工学科卒業、神戸大学大学院システム情報学研究科博士前期課程修了、神戸大学大学院システム情報学研究科博士後期課程修了。2025年4月より現職。日本コンクリート工学会 日本建築学会所属。



研究室概要

コンクリートを中心とする、安心安全な建築材料の研究を行っています

建物には多様な材料を組み合わせるため、各材料の性能・性質を正確に把握することが重要です。誤った使用は性能を損ない、地震や火災など災害時の被害拡大につながり得るため、より良い建物づくりに向け、新材料の研究と災害被害を低減する材料の開発を進めています。

動画で紹介している研究について

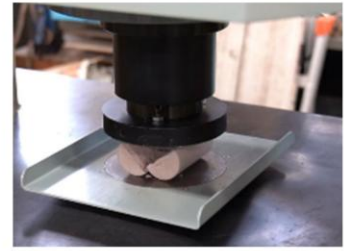
コンクリートによるCO₂吸収に関する研究

カーボンニュートラルおよび環境負荷低減を目的として、コンクリートのCO₂吸収特性に着目。コンクリートは中性化によってCO₂を取り込み、炭酸カルシウムとして固定化しますが、従来は耐久性低下の要因として扱われてきました。一方で近年は、長期的なCO₂固定源としての可能性が注目されています。本研究では、材料の種類や配合、内部構造の違いによってCO₂吸収量がどのように変化するかを整理し、効率的かつ安全にCO₂を吸収できる条件の検討を進めています。(右は経過観察中の素材)



熱帯・亜熱帯地域の赤褐色土壌「ラテライト」を用いたモルタルの研究

ラテライトは多孔質で吸水率が高く、調合量によって吸水率・密度・強度が大きく変化します。材料試験の手間を減らすため、モルタル表面の画像をRGBに分解、赤色成分(R値)の統計量(平均、占有率、標準偏差)から材料特性を推定できるか検討中。材齢1週では、吸水率・密度・強度とR値平均に一定の傾向が見られ、今後は材齢4週や混和材を加えた試験体も含めて解析を進めています。



雨水を吸収する高吸水性インターロッキングブロックの研究

雨のあとに舗装に水たまりができる問題に対し、排水に頼らず水を吸うインターロッキングブロックの開発を進めています。雨のときに一時的に水を吸収し、あとでゆっくり放出する仕組みを目指し、強度と耐久性の確保も重視。試験体は276体作製。ラテライトを増やすと吸水性は上がる一方で曲げ強度は下がります。

したが、圧縮強度と割裂引張強度は上がり、密度は下がる傾向が確認された。さらにバインダー処理で性能改善の可能性を検討しています。



技術職員(研究支援)
和藤 浩さん

真空脱水工法および既存コンクリートの診断技術

真空脱水工法を用いたコンクリート床スラブ表層部の性能改善に関する研究。濾過マットと真空ポンプを用い、大気圧による圧密効果と余剰水の除去効果によって、表層部の強度や品質を向上させる工法について実験的に検証。また、約30年前に打設された低強度コンクリートを対象に、非破壊試験を用いた現場診断手法の確立にも取り組んでいます。



学生の卒業後の進路

五大ゼネコンや太平洋セメント、UBE三菱セメントをはじめとした企業や、設計事務所、建築コンサル、公務員など建築関連の各分野で卒業生が活躍しています。

研究室を志望する方へ

建築材料に限らず、今後は鉄筋コンクリート構造物を対象に、構造実験や画像解析による損傷測定にも取り組みます。“材料”と“構造”の両面をカバーする分野で、設計するのではなく、建物を建てることに関心のある方、お待ちしております。



研究室への問合せ

mitanori@arch.mie-u.ac.jp (三田 紀行先生)
son@eng.mie-u.ac.jp (孫 文可先生)

研究室紹介動画は
こちらから





建築学専攻 建築講座
鋼構造・合成構造、地震防災研究室

2025年12月取材

教授 川口 淳 先生

博士(工学)三重大学。三重大学工学部建築学科学士課程を修了後、同大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程を修了。1990年に三重大学工学部建築学科助手に着任し、2001年より同大学大学院工学研究科助教授、2007年から准教授を務める。その間、2003年より三重大学災害対策プロジェクト室助教授・主席室員(チーフ・オーガナイザー)を兼務。2023年より現職。

エピソード

1995年阪神・淡路大震災の建物被害調査が防災研究の原点です。当初は耐震基準の機能確認に留まりましたが、後に「人の命を救う研究ができているのか」と自問しました。現行基準が機能しても6000人超の命が失われた事実に、市民に向き合う必要性を痛感したのです。地域活動を始めた頃、リーダーから「論文だけ書いて地域にフィードバックしない」と厳しい言葉を受け、何度も足を運び信頼を得た経験が転換点に。研究成果ファーストから「地域に何を残せるか」ファーストへと姿勢を変え、現在は県と共同で防災・減災センターを運営しています。

研究室概要 鋼構造を中心とした耐震研究と地域・行政の防災活動

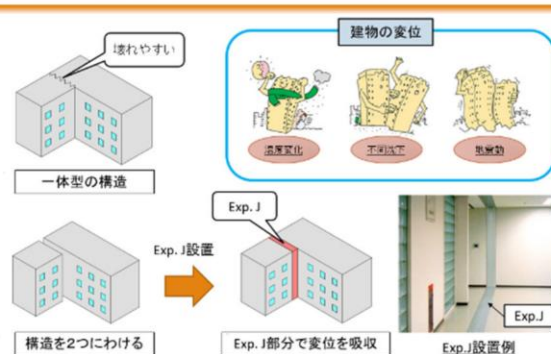
耐震工学と防災・減災を軸に、建築物の安全性向上を目指す総合的な研究を行っています。耐震デバイスや構造部材の開発、既存建築物の耐震診断、簡易基礎の研究など構造面の安全性検証に加え、GISを活用した地震ハザードマップ作成、防災教育の推進、自治体の防災施策支援、企業のBCP策定支援など、社会の防災力向上にも取り組んでいます。さらにドローンや360°カメラを活用した災害対応システムも開発し、ハード・ソフト両面から防災研究を推進しています。

動画で紹介している研究について

免震建物用エキスパンションジョイント(Exp.J)の性能検証手法に関する研究

免震建物用エキスパンションジョイント(Exp.J)の性能検証研究を行っています。Exp.Jは建物間のスキマを覆うカバーで、地震時に免震建物の動きに追従する必要がありますが、組み合わせによる性能検証が不十分です。建物から受ける影響やExp.J自体の機構を解明し、必要な性能基準を明示することで、より安全な免震構造の普及に貢献したいと考えています。

エキスパンションジョイント(Exp. J)とは？

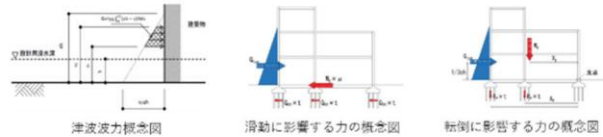


沿岸部に立地する建物の耐津波性能評価

東日本大震災等の津波被害を踏まえ、既存建物の耐津波性能評価を行っています。南海トラフ巨大地震の想定地域である三重大学キャンパスを対象に、津波荷重を算定し建物の滑動・転倒が始まる浸水深を計算、想定浸水深と比較して安全性を評価します。避難建物としての適性を検討し、災害時の安全な避難計画立案に活かします。

評価方法

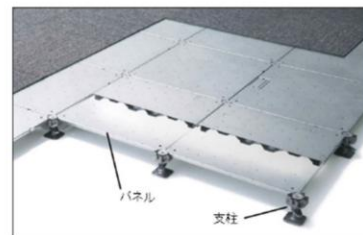
- ・浸水深が何メートルで滑動、転倒が起こるのかを算定する。



粘弾性体を使用した制震フリースアクセスフロアの開発研究 ～地震応答解析～

フリースアクセスフロアに粘弾性体による減衰機構を設け、地震時の床応答を低減する研究を民間企業と共同で進めています。先行研究では弾性体を想定した解析手法の精度に課題がありました。本研究では応力緩和試験から粘弾性体の材料特性を求め、一般化マクスウェルモデルによるFEM解析を提案します。振動台実験と解析により減衰性能を評価し、安価で付加価値の高いフロアシステムの開発を目指します。

フリースアクセスフロアとは



二重床システムのうち、床天端のパネルなどを簡易に取り外して床下空間の設備などの保守ができる構造のもの。電力用配線、通信用配線、機器等が収容される。

研究室を志望する方へ

私たちの研究は、社会実装(実現)を大切に考え、常にそこをゴールに据えて取り組んでいます。もちろん必ずしも実現できるわけではありませんが、達成できたときの喜びは格別です。興味ある学生はぜひ当研究室に来てください。

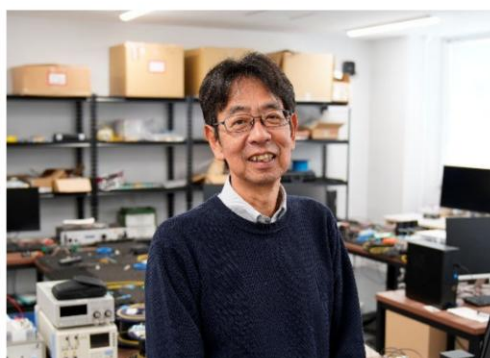


お待ちしております！(ご紹介動画より)

研究室への問合せ
jkawa-sec.mrpco@mie-u.ac.jp

研究室紹介動画はこちらから





情報工学専攻 情報ネットワーク工学講座
情報通信システム研究室

2026年4月取材

教授 真鍋 哲也 先生

プロフィール 博士(工学)大阪大学。大阪大学基礎工学部機械工学科卒業、同大学院基礎工学研究科修士課程修了。

西オーストラリア大学MBA修了。日本電信電話株式会社(NTT)内部統制室担当部長、アクセスサービスシステム研究所主幹研究員などを経て、2020年より現職。専門は光アクセスネットワーク、光ファイバセンシング。

エピソード 香川県出身。中学生のときに電子工作に目覚めました。大学時代はワーキングホリデーで、1年間オーストラリアに滞在。大学院ではロボットの学習制御の研究に取り組みました。現在は学生時代の経験も生かしつつ、通信関連分野の研究を行っています。趣味はテニス、木工、電子工作。

助教 安藤 ダニエル 明 先生

プロフィール 博士(工学)北海道大学。ブラジリア大学電気工学部通信ネットワーク学科卒業、北海道大学大学院情報科学研究科メディアネットワークコース博士課程修了。2024年より現職。専門は無線通信、信号処理。

エピソード ブラジル・ブラジリア出身。中学生のときに連立方程式の勉強のため数学が大好きになりました。大学時代に交換留学でドイツおよび大阪に1年間ずつ滞在。大学院では無線通信のための信号処理の研究に取り組みました。現在もその分野を中心に研究を続けています。趣味は旅行、語学、筋トレ、PS5。



研究室概要

光通信ネットワークの信頼性向上に向けた研究

電気・ガス・水道と並ぶ重要なインフラとなった通信。動画配信やクラウド、オンライン会議など、私たちはいまや24時間365日それに頼って暮らしており、ネットワークは「つながっていて当たり前」の存在になっています。当研究室では、この先も通信が止まらないよう、情報化社会の基盤である光通信ネットワークが安定してつながり続けるための信頼性向上に取り組んでいます。(真鍋先生)

次世代移動通信(6G)を支える無線通信技術の研究

6Gの実現をめざし、無線通信技術の研究を行っています。注目しているのは、成層圏を飛ぶ飛行機に基地局を載せ、地上約250局分の広域を一度にカバーするHAPS(高高度プラットフォーム)です。電

波の届きにくい場所にも通信を届けるため、多数の利用者が同時に接続できる多元接続方式を深層学習と組み合わせている点が特徴です。(安藤先生)

現在の研究について (動画で詳しく紹介しています)

微弱な光ファイバ給電で動作するモニタリングシステムの研究 光ファイバ給電は、光ファイバでデータと電力を伝送し、受信側で光を電気に変換して機器を動かす技術です。既設の光アクセスネットワークを活用できるため、設置コストを抑えながら柔軟な利用が可能です。現在は、通信に用いる微弱な光エネルギーを効率よく活用する給電回路やシステム構成を研究しています。

光ファイバをセンサとして用いた振動位置推定の研究 通信に使われる光ファイバは、道路工事などで損傷する事故が発生しています。本研究では、光ファイバ自体をセンサとして活用し、振動の種類や発生位置を推定して異常を検知します。機械学習やPythonによる信号処理を用い、ノイズ中から対象の振動を抽出することで、異常の早期発見を目指しています。

光ファイバの振動を利用した情報伝送技術 光ファイバの外被に振動を与え、その変化を検出して情報を伝送する方式を研究しています。既設の光ファイバを活用できるため、低コストなインフラ監視への応用が期待されます。光の状態変動による受信性能の低下が課題ですが、複数信号を組み合わせる受信方式を提案し、性能向上を確認しました。

機械学習を用いた到来方向推定の高精度化 到来方向推定は、レーダーや次世代移動通信システム(6G)で重要な技術です。従来手法は高精度である一方、計算量が大きいという課題があります。本研究では、機械学習を用いて計算量を抑えながら高精度な推定を実現する手法を検討しています。現在は、実環境での活用を見据え、現実的な条件下での性能評価に取り組んでいます。

研究室の雰囲気など 学生の主体的な取り組みを重視しています。自らの価値を高めるために努力している学生には、国内外の学会や国際会議での発表ができるように指導しています。

主な進路 メーカー、ゼネコン、ガス、鉄道など多種多様な企業で活躍しています。



興味のある方は見学にいらしてください！



研究室風景

研究室への問合せ

manabe@info.mie-u.ac.jp (真鍋先生)

ando@info.mie-u.ac.jp (安藤先生)

研究室
紹介動画は
こちら





情報工学専攻 知能システム工学講座
データサイエンス研究室

2025年12月取材

教授 松岡 ^{まさゆき}真如 先生

工学博士(1998年 千葉大学)。2006年度から2020年度まで高知大学の自然科学系・農学部門などにおいて講師および准教授として教育研究に従事。2021年度より三重大学工学研究科准教授、2024年度より現職。人工衛星データと現地調査を組み合わせ、森林や農地の状況を総合的に把握し、環境の変化を解析する地理情報研究を進めています。

講師 奥原 俊 先生

工学博士(2020年 名古屋工業大学)。2020年12月～2022年2月まで京都大学大学院情報学研究科社会情報ネットワーク講座特定助教。同年3月より現職。教育・研究の両面から情報科学分野に携わり、現在は社会課題を理解し整理する力を基盤に、情報処理・AI・統計を実践的に活用し、ビッグデータを現場で使える形に整え運用へつなげる力の育成に取り組んでいます。



研究室概要 地理空間情報の解析(松岡先生)・エージェントの合意形成支援(奥原先生)

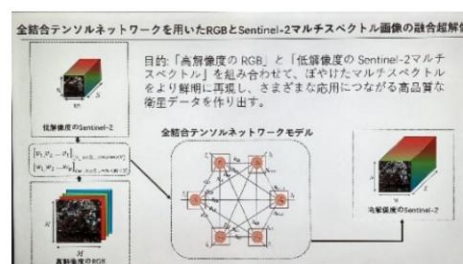
地図や衛星画像といった地理情報を使って科学的・社会的課題を解決することを目的とした技術的・学問的分野です。特に近年は、空間情報を用いた機械学習の研究が進んでおり、Geodata Scienceに期待が寄せられています。(松岡先生)

社会課題解決の研究として、人とAIが協力して意思決定や話し合いを支援する仕組みの研究を行っており、今後の発展が見込まれています。(奥原先生)

動画で紹介している研究について

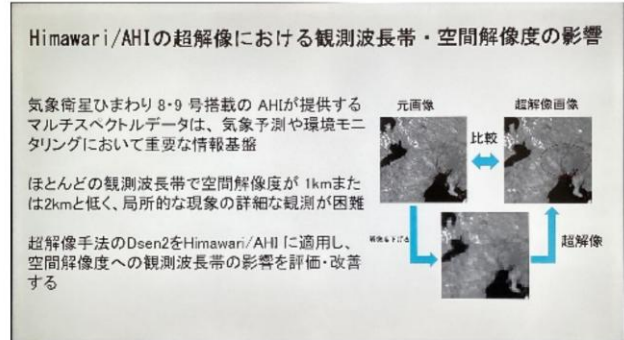
テンソルネットワークによるデータ融合

全結合テンソルネットワークを用い、カラー画像とSentinel-2のマルチスペクトル画像を組み合わせた超解像手法の研究。高解像度カラー画像と低解像度マルチスペクトル画像を統合することで、ぼやけたマルチスペクトル画像をより鮮明に再構成し、高精細なマルチスペクトル画像の生成を目指しています。



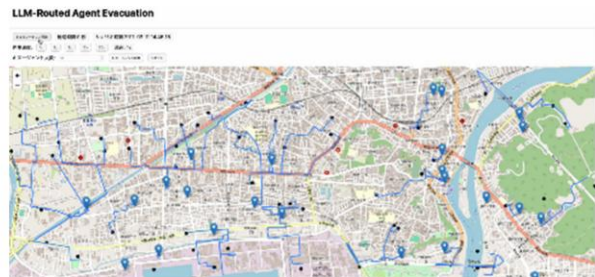
Himawari AHIの超解像における観測波長帯と空間解像度の影響を評価する研究

気象衛星ひまわり8号・9号に搭載されているAHIセンサーを対象に、超解像処理における観測波長帯と空間解像度の影響を評価する研究。多くの波長帯で空間解像度が1~2kmに制約されている点に着目し、深層学習の手法を適用し、局所的現象の観測精度向上を図っています。



津波災害を想定した避難エージェントの開発

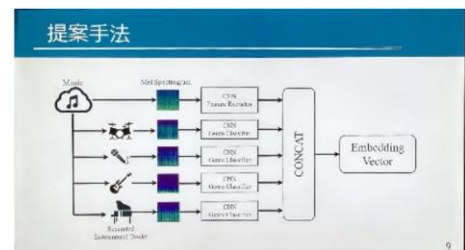
ChatGPT や Gemini などの大規模言語モデルを活用し、津波災害を想定した避難エージェントの開発をしています。災害時の行動支援を目的とした AI エージェントの設計と評価を行っています。



音楽楽曲をAIが理解し・推薦できるようにするための研究

音楽楽曲をAIが理解・推薦するための研究、楽曲を楽器ごとに分離し、それぞれからジャンルを推定した上で統合する

手法を用い、楽曲ジャンル表現の高度化を試みています。将来的には、LLMと統合し、自然言語による楽曲検索や推薦が可能なシステムの実現を目指しています。



研究室を志望する方へ 松岡先生…衛星画像や三次元データを使って自然環境や都市空間の解析をしてみたい人は、ぜひどうぞ！

奥原先生…人とAIが協力する仕組みづくりやデータ分析に興味がある人も、ぜひどうぞ！



研究室のようす



見学もお待ちしております！



留学生のみなさん

研究室への問合せ

matsuoka@info.mie-u.ac.jp (松岡先生)
okuhara@info.mie-u.ac.jp (奥原先生)

研究室紹介動画は
こちらから





情報工学専攻 人間情報学講座
知能化ライフサポート研究室 小川グループ

2026年4月取材

准教授 小川 将樹 先生

博士(芸術工学/九州大学、2015年)。三重大学大学院工学研究科情報工学専攻(工学部総合工学科)助教を経て、2023年より現職。専門は視覚誘導性自己移動感覚(バクション)、視覚的注意、視覚誘導性動揺病。

エピソード

小学生の頃から大学生まで、テレビゲームのクリエイターを目指していました。転機は、卒業研究で立てた目的を突き詰めたいと考え、大学院への進学を決めたことです。素晴らしい先生方と研究環境に恵まれ、気が付けば研究者への道を歩んでいました。自身の興味もさることながら、先生方の影響も大きく、近年は自己移動感覚や動揺病(乗り物酔い・映像酔い)に関する研究を主に進めています。今後も、心理・生理と工学をつなぐような研究を続けていけたらと思っています。

研究室概要 VR技術を活用した生活支援システムと酔い抑制手法の研究

知能化ライフサポート研究室は、林田祐樹教授を筆頭に、杉浦友紀助教と小川の3名体制で、生活の質(QOL)の向上に役立つ知見と仕組みの創出に取り組んでいます。

なかでも小川グループは、VRを実験ツールとした実験心理学的アプローチにより、動揺病(乗り物酔い)の抑制や、ヒトの視覚特性の解明をテーマとしています。特徴は、「酔い」という主観的な現象に正面から挑むため、血中ガス濃度や眼球運動といった生理的指標と、本人による主観評価とを組み合わせ、確実性の高い検証を行う点です。

検証はシミュレーターにとどまらず、実際の船舶や車両に乗り込んでの実用性確認にまで踏み込んでいます。近年は、VRやディスプレイの普及で身近になった「映像酔い」の軽減が、研究の主軸となっています。



バーチャルリアリティシステム
(3D映像音響システムとモーションベース)



動画で紹介している研究について

視線データから探る、画面酔いを抑える快適な映像設計
具体的には、映像内に視線を安定させるための目印(固視点)を配置し、その有無や形状が視聴者の不快感や視線の動きに与える影響を調査しています。実験では主観的な不快感の評価と客観的な視線データを取得・分析し、酔いの発生要因を解明することで、より快適に映像を楽しめる画面設計の条件を導き出すことを目指しています。



自己移動感と快適さを両立する、VR酔いの低減手法

VR技術の課題である吐き気やめまいといった「VR酔い」を低減する手法の研究。VR空間での移動表現(ベクション)では視覚と感覚のズレから酔いが生じやすいため、速度の異なる映像(光学的流動)を重ねて提示することで、移動感覚を保ちながら不快感を減らす手法を提案しています。今後は宇宙空間や街中といった、実際に近い仮想環境での検証を進めていく予定です。



研究室紹介動画より(実験中の様子)

脳内の補完現象を活用し、没入感を保ちながらVR酔いを抑制

VR酔いを抑えるため映像周辺部を隠す手法は、没入感が損なわれる課題があります。そこで、隠れた部分を脳内で非感覚的に補う「アモーダル補完」という現象に着目。実際に網膜に映る物理的な範囲と、脳内で補完された主観的な範囲のどちらが酔いの強度に影響するのかを検証しています。もし主観的な範囲が酔いに影響しなければ、没入感を維持しつつ不快感を抑える新たなVR映像の提示手法に繋がります。

学生の卒業後の進路

例年、一定数が大学院へ進学します。修了後の就職先は特定の業種に偏らず、直近では車両・通信関係のほか、教育、銀行、電力関係など多岐にわたっています。



ぜひ、見学にいらしてください！

研究室への問合せ
ogawa.info@mie-u.ac.jp (小川将樹先生)

研究室紹介動画は
こちらから



三重大工学部同窓会総会開催(2025 年度)

報告者： 松岡 守 (5 期電気)

6月28日(日)11時半より、津みやびを会場に懇親を兼ねての年次総会が開催されました。年次総会と言っても会員向けのメーリングリストに開催を呼びかけるだけの試行的なもので、今年度がその2回目、役員を含めて16名の参加(うち1名は委任の形)がありました。会議は以下の議事次第に従い進められました。

1. 開会
2. 総会成立宣言
3. 会長挨拶
4. 来賓ご挨拶
5. 議長選出
6. 議事録署名人選出
7. 議事

第1号議案 2025年度事業報告

第2号議案 2025年度決算報告

第3号議案 三重大学工学部同窓会会則の改正について

第4号議案 2026年度役員選任案

第5号議案 2026年度事業計画案

第6号議案 2026年度予算案

8. その他
9. 閉会

4. の来賓ご挨拶ではこの4月に就任された工学研究科長の今西誠之先生よりお抱負と工学部同窓会への期待についてお話いただきました。

第3号議案の「三重大学工学部同窓会会則の改正について」は、限られたスタッフでの運営で現状の会則どおりに進めることが困難な部分を現状に即した形にすることと、会員の組織化を無理なく進められることを意図したもので、実質は大きく変わるものではありませんが、会則の文言上は全面的な改正となります。そこで会員への周知とご意見をいただく期間が設ける必要があるだろうということで、作業としては進め、会員のご意見を集約して一年後の年次総会で正式に決定するという事で承認されました。他の議案についてもいくつか質疑応答の上で承認されました。



工学部同窓会に女子力を注ぎ込む

～工学女子パイオニアからの呼びかけ～

報告者：岡部 憲子（4期工業化学）

経歴～卒業後のあゆみとエピソード

三重県桑名市出身。1972年、三重大学工学部工業化学科に入学(4期生)。工学部で3番目の女子学生。初対面ではいつも「工学部への入学理由」を聞かれ、説明に苦労した。1976年卒業後、名古屋工業大学大学院応用化学課修士課程に入学。こちらでは、だれも入学理由を尋ねなかった。『さすが名古屋は都会である』と岡部さんは語る。専攻は電気化学(グルコースセンサーの開発)。同課程修了後は、化粧品製造会社を経てソフトウェア開発に従事した後、独立。1993年、株式会社サクラソフトハウスを設立し、ソフトウェア開発に専念。2011年には、簡易郵便局の経営をはじめる。現在は2局の簡易郵便局を運営し、過疎地のユニバーサルサービスに貢献しつつ、小さなソフトウェア会社も営んでいる。



同窓会へのお誘い

このたび、三重大学工学部同窓会において女性活躍担当という役員を拝命いたしました、4期生の岡部憲子です。この役目は、社会で活躍されている三重大学工学部出身の女性を探し出し、同窓会に女子力を注ぎこむ役目です。

私はこれまで、修了した大学の同窓会名簿管理システムの運営に携わっており、名簿管理の知見が多少ございます。また、その大学の女性だけの同窓会にも参加し、工学部出身の女性の活躍も頼もしく感じております。私が就職した50年前とは、社会が大きく変わったことを実感しました。

現在、三重大学工学部の女子学生の比率は、応用化学32%、建築学科30%、電子情報工学22%、情報10%、機械8%、電気電子6%、平均で16%です。これだけたくさんの女子学生さんがみえるのなら、同窓会に女子力をたっぷり注ぎ込んでいただきたいものです。

日本の総理大臣もようやく女性になり、女性活躍の場を広げるにあたり、女子技術者を増やすため、工学部女子学生数を現在の20%から30%に増やすという目標を掲げました。各大学はオープンキャンパスで女子高校生に工学部へ興味をもってもらうために、女子学生や卒業生を動員し、学校生活や卒業生の企業での活躍、家庭生活などを紹介するイベント等を企画しており、卒業生の協力が必要になっています。そのために、同窓会へ女性卒業生をお誘いしたいと思います。

皆様、ぜひ同窓会にご興味をもっていただき、昭和世代の同窓生に活躍ぶりをご披露ください。よろしくお願いいたします。



同窓会への連絡はこちらから



グローバル人材育成プロジェクト報告(2025年度)

報告者： 田中 貢（4期電気）

2025年7月30日工学部11番教室においてグローバル人材育成プロジェクトのプレゼン審査が金子理事、川中教授、柿崎同窓会長にもご臨席賜り行われました。応募者が各自自分の留学計画についてプレゼンを行われ、その結果下記の2名が採択され、工学部同窓会から一人当たり30万円の留学奨学金が支給されます。

今年は応募者が少なく、また採択された2名は三重大大学の交換留学制度でそれぞれイギリス、スペインに半年以上留学することになっています。大学の留学制度と併用することがいいのかどうか議論ができましたが、交換留学の場合学費はいらないものの大学からの支援金はわずかしかならないということで同窓会のこの奨学金も有効に使ってもらえるのならいいのではないかとということで決まりました。来年度からも交換留学生も対象に留学支援をできたらと考えています。

① 太田 康元

三重大大学工学部総合工学科建築学コース3年

留学先：スペイン ジャウメー世大学

留学目的：大学の建築デザインや建築英語の授業を受講し、スペインにおける建築様式の理解を深め、日本建築と融合させることを目指す。

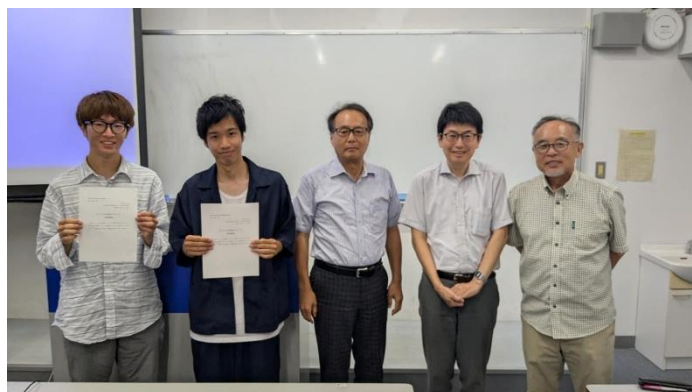
② 山口 翔大

三重大大学工学研究科情報工学専攻修士1年

留学先：英国 セントラルランカシャー大学

留学目的：Study Overseasプログラムで英語によるコミュニケーション能力を上げる。その合間に関係する研究室の見学を行う。

短い間でも異文化に触れて様々な国の人とコミュニケーションをとる経験はきっと将来役に立つはずです。健康に留意して思いっきり楽しんできてほしいと思います。



英国 セントラルランカシャー大学留学報告(2025 年度)

報告者： 山口 翔大（情報工学1年）



プレストン駅の前の景色

2025年9月から2026年1月にかけて、私はイギリスのセントラル・ランカシャー大学に交換留学生として4ヶ月間留学しました。もともとは、所属大学の協定校であるアメリカのノースカロライナ大学への留学を予定していましたが、当時の政治的な不安定さを理由にプログラムが中止となり、急遽イギリスに行き先を変更しました。今振り返ってみると、イギリスでの留学は私の価値観を大きく変えてくれた、とても意味のある経験だったと感じています。

大学はイングランド北部、マンチェスター近郊のプレストンという街にあります。ロンドンほど知名度は高くありませんが、赤レンガ造りの建物が多く、街全体にイギリスらしい伝統的な雰囲気が漂っておりとてもいい街です。市街地がそれほど広くないため、買い物にも便利でした。

大学は街から切り離された場所にあるのではなく、街の中に自然に溶け込んでいます。孤立した環境に立地している日本の大学とは異なり、キャンパスと街が一体となっており、学生も地域住民も、日常生活の中で入り交じっていました。

最初に気づいた文化の違いは、イギリス人が見知らぬ人と接する際のコミュニケーションの取り方でした。日本と比べると、イギリスでは気軽に話しかけてくる人がとても多いです。レジの店員さんやバスの運転手、駅のホームで待っている人まで、よく声をかけてくれました。最初のうちは英語で素早く答える余裕がなく、日常的な雑談でも緊張してしまうことがありました。しかし時間が経つにつれて、自然に会話に加わるようになっていきました。また、イギリス人は日常のやり取りの中でも感情をオープンに表現することが多く、そうした雰囲気のおかげで、間違いを恐れずに英語を話せるようになっていきました。

交換留学プログラムでは、グローバリゼーションに関する授業と、各国の広告文化を比較する授業の2科目を履修しました。本来は情報工学を専攻しているため工学系の授業を受けたかったのですが、1学期のみの交換留学生には工学のモジュールが開放されておらず、残念に思いました。しかし、結果的に有意義なものになりました。

グローバリゼーションの授業では、政治・経済・文化・テクノロジーが国境を越えてどのように影響し合っているかを学びました。講義中心ではなく、ディベートやロールプレイング活動が多く取り入れられており、成績は2,000語のエッセイとクラスへの参加度で評価されました。あるロールプレイングでは、各

学生が異なる国の立場に立って貧困問題について議論しました。クラスメートが多国籍だったこともあり、議論は活発でした。同じテーマを学んでいても、文化的背景や国の経験によって意見が大きく異なることがわかりました。

広告の授業では、世界各国のマーケティング戦略やメディア文化を比較しました。課題は1,500語のレポートとグループプレゼンテーションで、グループメンバーは複数の国から集まっており、各国の広告が社会的価値観をどのように反映しているかについて話し合いました。たとえば、日本の広告は調和や間接的な表現を重視する傾向がある一方、イギリスの広告は直接的でユーモアのあるものが多い、といった違いがあります。多国籍のグループで活動するのは難しい場面もありました。コミュニケーションのスタイルやチームワークへの期待がそれぞれ異なるため、役割分担を決めるだけでも時間がかかることがありました。

イギリスの学習スタイルは、日本で慣れ親しんできたものとは大きく異なりました。日本の授業では、教授が説明する間、学生は静かに聞くことが多いです。それに対してイギリスの授業では、積極的に参加することが求められました。授業中に自分の意見を述べたり、質問したり、他の学生の発言に反応することが当たり前の雰囲気でした。そのため、授業前の予習や授業後の復習に多くの時間を費やさなければならませんでした。特に学期の初めは、複雑な考えを英語で表現できるか不安になることもありました。それでも、教授たちはとても親切で協力的で、丁寧に質問に答えてくれ、間違いを恐れずに発言するように学生を後押ししてくれました。

学外での日常生活もとても印象に残っています。渡航前はよくイギリスの食事はまずいという話を聞いていましたが、実際にはほとんどの食事は普通においしかったです。しかし、マーマイトや近所の中華料理店などは私には合いませんでした。プレストンは中東系の移民が多い街で、ケバブをはじめとするさまざまなエスニック料理を提供するレストランが充実していました。友人とよくそういったお店に足を運んでいましたが、どれも手頃な価格でおいしく、各国の料理を試すことが日常の楽しみの一つになりました。

週末や休日には、機会があるたびにイギリス各地やアイルランドを旅しました。グラスゴー、ロンドン、ダブリン、マンチェスターを訪れましたが、それぞれの街がまったく異なる雰囲気を持っており、旅を通じてその多様性を肌で感じることができました。



ロンドンのピカデリーサーカス

特に印象的だったのはロンドンでした。ピカデリーサーカスや大英博物館など、教科書や映画でしか見たことがなかった場所を実際に訪れることができました。街は世界各国からの観光客や、さまざまな文化的背景を持つ人々で活気にあふれていました。

ダブリンではギネス・ストアハウスを見学し、歴史的な街並みを歩き回りました。街全体にゆったりとした雰囲気が漂っており、夜

はパブでライブ音楽を聴くのを楽しみました。アイルランドはイングランドとは、アクセントや建築、街中での会話の雰囲気など、さまざまな点で異なっていました。

一方で、イギリスでの生活が常に順調だったわけではありません。天気はしばしば曇りや雨で、気温も低い日が続きました。冬になると日没がとても早く、日照時間が日本と比べて驚くほど短かったです。こうした環境のせいで、体が疲れたり、何事にもやる気が出なかったりする日もありました。日本食や家族、母国語で話せる安心感が恋しくなることもありました。それでも、友人たちが学期を通じてずっと支えてくれました。パブや飲食店などに誘ってもらったことで、孤独を感じずに済みました。

もう一つの興味深い発見は、日本文化がイギリスでいかに広く浸透しているかということでした。グラスゴーでは歌舞伎にインスパイアされたオペラが上演されており、スコットランドで伝統的な日本の文化テーマに出会うとは思っていませんでした。また、書店には大きなマンガコーナーが設けられていました。留学前は、日本文化が海外でこれほど広まっているとは十分に認識していませんでした。



ギネス・ストアハウス



本屋にて

今回の留学は、英語力だけでなく、様々な面で私を変えてくれました。4ヶ月間毎日英語でコミュニケーションをとった結果、リスニングとスピーキングのスキルは確実に上がりました。しかしそれ以上に、異なる背景を持つ人々と関わる力が身についたと感じています。自分の考えをわかりやすく伝えること、慣れない状況に対応すること、文化の壁を越えて人間関係を築くことといった力を育むことができました。また、異国の地で様々な問題を自力で解決しなければならない場面が多く、自立心も養われました。

この経験を通じて、将来についても真剣に考えるようになりました。国際的な場で活躍し、日本と世界の両方に貢献できる人間になりたいと思っています。様々な国の人と出会うことで、コミュニケーションと相互理解が今日のグローバル社会においていかに重要かを痛感しました。イギリスでの日々は時に困難もありましたが、この経験で得た自信と広い視野は、これからの人生においてもずっと活かしていきたいと考えています。

最後になりますが、工学部同窓会の奨学金のおかげでとても有意義な留学生活を送ることができました。同窓会を支えてくださっている皆様に感謝申し上げます。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった 三重大学工学部同窓会 グローバル人材プロジェクトの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



帰りに友人が見送ってくれました

スペイン ジャウメー世大学に留学報告(2025 年度)

報告者：太田 康元（建築 3年）

私は2025年9月から2026年2月までの約半年間、西洋建築への理解を深めることを目的に、スペイン・バレンシア州にあるジャウメー世大学へ留学する機会をいただきました。

本報告では、スペインでの学びと生活を通して得た経験について述べさせていただきます。

はじめに、留学先であるジャウメー世大学について紹介します。同大学はバルセロナから南へ電車で約2時間半の場所に位置する国際色豊かな公立大学で、多くの留学生が学んでいます。私は主に建築構造や西洋建築史に関する授業を受講し、講義と現地視察を通じて、西洋建築が持つ空間構成やデザイン性について理解を深めました。三重大学の講義で学んだ建築作品を実際に目にすることで、これまで平面図や写真でしか捉えられなかった建築が立体的な実体として迫ってくる感覚は非常に新鮮でした。

特に印象に残っているのは、バチカン市国のサン・ピエトロ大聖堂前に広がるサン・ピエトロ広場を訪れた際の体験です。ベルニーニポイントに立ち、知識として理解していた空間構成が実際の体験として一致した瞬間の感動は忘れられません。多くの観光客が素通りしていく中で、「知っていること」「学んでいること」が景色の見え方を大きく変えることを実感し、学ぶ環境に身を置けていることへの感謝が込み上げました。

次に、ヨーロッパでの生活について述べます。幼い頃から憧れていた地域での生活は毎日が刺激的で、半年間があっという間に過ぎていきました。街を歩けば、歴史を感じさせる建物が連なる街並み、厳かな教会、そして道端で会話や食事を楽しむ人々の姿など、どこを切り取っても学びに満ちていました。また、ヨーロッパ内の移動距離が想像以上に近く、飛行機を使えば数時間で主要都市へ行けることにも驚かされました。

生活の中でも特に思い出深いのは、現地大学でできた友人や、親しくなった教員ご家族と囲んで食べたスペイン料理の代表格・パエリアです。食事を通じて文化を共有し、深い交流ができたことは、留学生活の大きな財産となりました。

振り返れば、語学学習、ビザ申請、住居探し、友人関係の構築など、留学準備から現地生活まで、これまで経験したことのない挑戦の連続でした。特にスペインでは、自ら積極的に行動しなければ何も始まらず、時間だけが過ぎてしまうことを痛感しました。半年間の留学と、その準備期間を含めた1年半の経験は、私にとって計り知れない価値を持つものとなりました。

今後は、この経験を自身の学びや行動に生かし、さらに成長していきたいと考えています。

最後に、留学を支援してくださった三重大学同窓会の皆様、先生方、留学支援室の皆様、そしてスペイン側の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



三重大学工学部同窓会研究支援 成果報告会及び審査会(2025 年度)

研究支援担当 松岡 守 (5 期電気)

2025年12月17日(水)に下記の要領で三重大学工学部同窓会研究支援成果報告会及び審査会を行いました。

報告は2025年の研究支援3件と会長賞1件、合わせて4件で、この一年間で得られた研究成果が披露されました。また研究支援関係とは別に今年度は工学的な学生の活動1件についても試行的に助成をしており、その報告も併せて実施しました。

審査は来年の研究支援を希望される9件について行いました。審査の結果、研究支援として3件、会長賞として1件を採択、合わせて4件について50万円ずつを贈ることに決定しました。

今後も同様に研究支援を行っていく予定です。次回も多くの応募をお待ちしております。今回試行的に実施した工学的な学生の活動に対する助成も同窓会として意味のある取り組みであることが確認できたことから、公募の形で助成の枠を設けてはどうかという検討を始めたところです。これについては固まり次第ご案内する予定です。

スケジュール:

15:00 冒頭ご挨拶 工学研究科 副研究科長 林田祐樹先生

今年度採択分の成果報告(10分報告+5分質疑)

研究費支援テーマ(各50万円)

15:05 ① 三岩 功季さん システム工学専攻・人間支援システム研究室 D1

指導教員:池浦良淳 先生

「車道上での自転車回避行動が自動車走行及び運転者に与える影響」

15:20 ② 溝田 功先生

「イミン類のラジカル異常付加反応の探索」

15:35 ③ 佐藤公亮先生・立松純一郎さん 建築学専攻 准教授・M1

「南海トラフ巨大地震を受ける冷間成形角形鋼管柱の多数回繰返し局部座屈挙動と耐震性能」

会長特別賞(50万円)

15:50 ④ 山田 賢治さん 材料科学専攻・生体システム工学研究室 D1

指導教員:稲葉忠司先生

「結晶塑性論に基づく金属材料の変形挙動に関する研究」

今年度採択分の学生活動成果報告(10分報告+5分質疑)

学生支援テーマ(30万円)

16:05 ① 花村 智樹(B4)・明石 潤(B1) 総合工学科機械工学コース

三重大学学生フォーミュラチーム「Tracers」

顧問教員:池浦良淳先生

「全日本学生フォーミュラ大会出場報告」

休憩/審査会準備

来年度応募分のプレゼンテーション(10分プレゼン+5分質疑)

16:30 ① 高木 優斗さん 工学部・工学研究科技術部 技術専門員 【会長賞】

「研究ミーティングの事前準備を支援するドメイン適応型AIエージェントの開発と評価」

16:45 ② 山本 峻句さん 量子ナノ機能化学研究室 M1

指導教員:八尾浩史先生

「電子顕微鏡のナノ粒子画像の効率的な輪郭線検出」

17:00 ③ ZHANG ZHILIANGさん 人間支援システム研究室 研究員

「AIによるみかんの識別と柔らかさの評価」

17:15 ④ 牧野 和馬さん 情報工学専攻 知能化ライフサポート研究室 M2 【研究支援】

指導教員:林田 祐樹先生

「上腕の筋活動から手指動作を推定するエッジAI推論式義手の開発」

17:30 ⑤ 宮崎 僚大さん 電気電子工学専攻・画像情報処理研究室 B4

指導教員:川中 普晴先生

「日常生活データを用いた認知機能低下の早期スクリーニングモデルの構築」

休憩

17:55 ⑥ 森川 直哉さん 情報工学専攻・動的生体情報応用研究室 B4

指導教員:湯田 恵美先生

「痛覚感応性を持った自律移動ロボットの実装と検証」

18:10 ⑦ 北島 巧海さん 電気電子工学専攻・画像情報処理研究室 助教 【研究支援】

「少子化対策に向けた地理空間情報を適応した高出生地域の特徴分析」

18:25 ⑧ 中出 捷さん 電気電子工学専攻・量子回路テクノロジー研究室 特任助教 【研究支援】

「熱で駆動する超省エネ計算機の弱点を量子効果を用いて克服する理論基盤構築」

18:40 ⑨ 井上 愛さん 地域イノベーション学研究科工学ユニット・ヒューマンコンピュータ

インタラクション研究室 M2

指導教員:盛田 健人先生

「大規模医療AIモデルの実用化に向けた個人情報検出手法の構築」

18:55 休会, 審査

審査結果発表, 表彰

19:15 再集合

会長より審査結果発表, 目録授与

ご講評 工学研究科 副研究科長 林田祐樹先生
記念写真
19:30 閉会

※所属, 学年は応募時のものです。



左から

松岡 守研究支援担当, 中出 捷さん, 北島巧海さん, 柿崎賢一会長,
高木優斗さん, 牧野和馬さん, 林田祐樹工学研究科副研究科長

三重大学工学部同窓会 学生団体活動支援審査会(2026 年度)

研究支援担当 松岡 守 (5 期電気)

2026年5月20日(水)に下記の要領で三重大学工学部同窓会学生団体活動支援審査会を行いました。

2件の応募があり、審査の結果、2件とも採択、各30万円ずつを贈ることに決定しました。また申請書には「経費以外の支援の希望」という記載欄を設けており、広報やOBの皆さんによる技術、物品、経費の支援等の希望が記載されています。これらは追って三重大学工学部同窓会のウェブページや同窓会誌「あの津から」に掲載することを検討しています。ご留意いただき、見かけられましたらご支援ご鞭撻方私からもお願いいたします。

今後も同様に学生団体活動支援を行っていく予定です。学生の皆さん、より多くの応募をお待ちしております。

スケジュール:

15:00 冒頭ご挨拶 工学研究科長 今西誠之先生
プレゼンテーション(15分プレゼン+10分質疑)

15:05 ① 中村 つかさ さん 電気電子工学コース 3年
M³RC(えむきゅーぶあーるしー)

「関西春ロボコン参加、キャチロボバトル参加、東海地区交流ロボコン参加」

顧問等教員:杉浦 徳宏 先生

15:30 ② 新美 響也 さん 建築学専攻 修士1年
CraftSpace

「タマキ・マナビ倉庫(玉城町にある空き倉庫)の利活用 /
学生 BAR BAZOOKA(改修した空き家)の運営 /
三重大学学際休憩所」

顧問等教員:近藤 早映 先生

15:55 休会、審査

審査結果発表、表彰

16:15 再集合

会長より審査結果発表、目録授与

ご講評 工学研究科長 今西誠之先生

記念写真

16:30 閉会



(下記の学生への支援は昨年の、年次総会の議題と提案されたもので、今年からは同窓会としては積極的に支援をするテーマにして募集しました。)

2025 学生フォーミュラ日本大会参戦報告書

報告者： 井上 空郷（機械 56 期）

1. ご挨拶

本大会に向けて、私たちは昨年度以上に多くの時間を費やし、設計・製作・検証に取り組んでまいりました。しかしながら、シェイクダウンを完了できず、会場での走行に至ることができませんでした。この点につきましては、応援してくださった皆様のご期待に十分応えることができず、心よりお詫び申し上げます。一方で、2022年度の再結成から0からのスタートで実績がない中、私たちの活動に関心を寄せ、協賛いただいたスポンサー様の存在があったからこそ、着実に一步一步前進することができました。心より御礼申し上げます。

また、学生自らの手で設計・製作したマシンを大会の舞台に立たせることができたこと、他大学チームとの交流や審査員の先生方から直接いただいた講評は、私たちにとって大きな財産となりました。克服できなかった課題の悔しさを忘れることなく、必ず次年度の糧としてまいります。

私たちはまだ道半ばですが、「挑戦し続けること」こそが学生フォーミュラ活動の最大の意義だと考えております。今回の経験を踏まえ、さらに強いチーム、信頼されるチームへと成長していけるよう努力を重ねてまいります。

初めての大会出場を実現できたのは、ひとえにスポンサーの皆さまのご支援のおかげです。今回の悔しさを必ず次につなげ、来年こそは大会の舞台で走行を果たし、さらなる飛躍を遂げられるよう精一杯努力してまいります。

改めまして、日頃のご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 大会概要

私たちの大会期間についてご報告致します。

【日程】

- 9 月8日 マシンを搬入
- 9 月9日 コスト審査とデザイン審査
- 9 月10日 プレゼン審査
- 9 月11日 模擬車検
- 9 月12日 エアロ到着&スポンサー様ロゴ貼付完了
- 9 月13日 集合写真撮影&マシン搬出

3.大会期間の活動報告

★ 9月8日(大会初日) マシンを搬入

私たちの三重大学から愛知のスカイエキスポ(国際展示場)までスポンサー様のご協力で運搬していただきました。

試走会や大会出場の経験が無かったため、搬入作業が不安でしたが、会場に無事マシンを並べることができました。

★ 9月9日(大会2日目) コスト審査&デザイン審査

二日目には、マシンを製作する過程やマシンを作成する過程で得た気づきを審査するデザイン審査、学生が事前に作成したマシンを作成するに必要なコストレポートが実際のマシンを交えて正確かを審査するデザイン審査に参加いたしました。マシンが完成していない為、加点とはなりませんでしたが、審査員とのトークやフィードバックから多くの学びを得ることができました。

★ 9月9日(大会3日目) プレゼン審査

大会三日目はフォーミュラカーを設計し、販売する学生と、それを製造や投資する審査員を想定し、コンセプトに従ったプレゼンテーションするプレゼン審査に参加しました。昨年度もフォローアップという形で参加しており、その経験を活かした実りの多いプレゼンテーションとなりました。

★ 9月10日(大会4日目) 模擬車検

大会四日目は模擬車検に参加致しました。(本来なら車検ですが、マシンが完成していなかったため、現状のマシンで模擬的な車検を実施していただきました)

大会に定められたルールに適合しているかをチェックしていただき、多岐に渡る改善点を指摘していただきました。

★ 9月11日(大会5日目) エアロ到着&スポンサー様ロゴ貼付完了

搬入時には完成してなかったエアロパーツを大会期間中に完成させ、会場に持ち込み、スポンサー様のロゴを貼り、広報活動を行いました。



★ 9月13日(大会6日目) 集合写真撮影&撤収

大会最終日には参加した全てのマシンを会場に並べての集合写真撮影に参加致しました。



搬入もスポンサー様のご協力で無事に完了しました。

Supported by

HONDA
The Power of Dreams

大隅産業株式会社

KYOKUTO

桑名金属工業

Asahi Diamond



Aisan



ITS
TOTAL TECHNICAL SOLUTIONS

A/AKE
朝明精工株式会社

みえプラス

YAHAGI
INDUSTRY CO., LTD.

SMK
新明和精工

SINFONIA

日本ガイシ

大同特殊鋼株式会社

HKS



THK

RAVS

REYA FORMULA

RS-R

WAKOS

ZAN co.,ltd.

Hitachi Astemo

VITA CLUB

株式会社 三陽

松阪

SOLIDWORKS

ofa

F.C.C.

YUTAKA

3Dconnexion

MIE TOYOPET

4.スポンサー掲示の様子

サイドポッド及び、スポンサーボードに企業ロゴを掲載させていただきました。

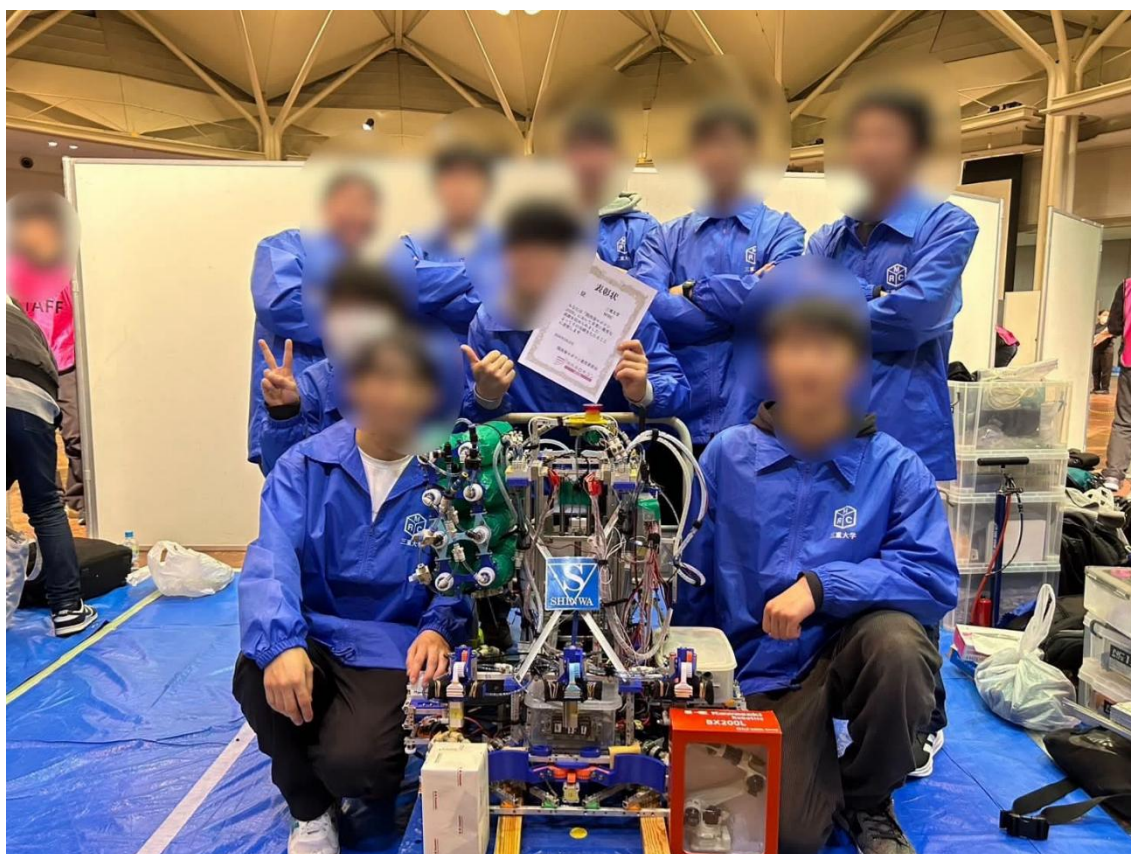
工学部同窓会 ， 個人支援

学生団体活動支援審査会について M³RC

報告者：中村 つかさ（電気 56 期）

2026年5月20日に行われました三重大学工学部同窓会学生団体活動支援審査会に三重大学でロボットを製作している団体、ロボコン部M³RC(エムキューブアールシー)として応募し、日頃の活動、直面している課題等を工学部同窓会会長の柿崎様をはじめ、皆様の前でお話しました。審査の結果、この度、支援金をいただくことが決定いたしました。部員一同、感謝申し上げます。
いただいた支援金でロボット製作のための部品を購入いたします。ありがとうございます。

ロボコンとはロボットコンテストの略称で、主な活動内容は学生がロボットを製作し、大会に出場することです。私たち三重大学ロボコン部も大会に出場し、よりよい成績を残すことを目標に、日々ロボット製作に励んでいます。この機会にロボコン部のことを知っていただき、応援していただけますと幸いです。よろしく願いいたします。



学生団体活動支援審査会について Craft Space

報告者：新美 響也（建築 54 期）

○ご挨拶

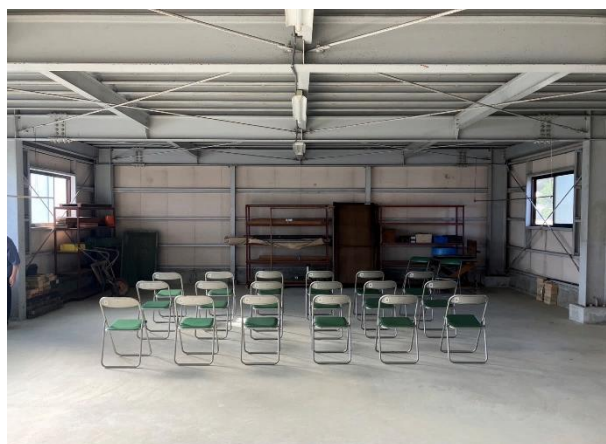
このたび、三重大学工学部同窓会学生団体活動支援に採択いただきました Craft Spaceと申します。皆様のご厚情により支援金30万円を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。メンバー一同、今回の採択を励みとするとともに、皆様からいただいたご支援への感謝を忘れず、その期待に応えられるよう責任を持って活動に取り組んでまいります。改めまして、このたびのご支援に深く御礼申し上げます。

○活動内容

三重大学の建築学科に所属する学生が中心となり、以下の3つの活動を行っています。

①タマキ・マナビ倉庫：

三重県玉城町にある空き倉庫を活用することで、玉城町でステーキホルダーを作り、地域図書館として開園することを目的に活動しています。令和4年度から活動を始め、同年度では事業の立案から施設活用の方向性とテーマが決定されました。その後、学生が中心となり家具作りや断熱材・石膏ボードの施工、内壁の塗装などを行いながら、玉城町内の小学生を対象としたワークショップ(R6年度 クリスマスパーティー、R7年度 栄徳塾 #1 & #2, etc.)を数回企画・実施しています。本年度では、民間企業の方と連携しながら、子上がりスペースや本棚の製作、天井の改修などを計画しています。



Before



After

②学生 BAR BAZOOKA：

空き家の有効活用に重点を置き、地域の文化的な拠点となることを目的に活動しています。2024年7月から2025年1月31日オープンまで、第一期の改修を行い、「学生BAR BAZOOKA」のBar空間を作りました。今は、来店者や従業員、地域住民にとって過ごしやすい空間となるように自分たちで手を

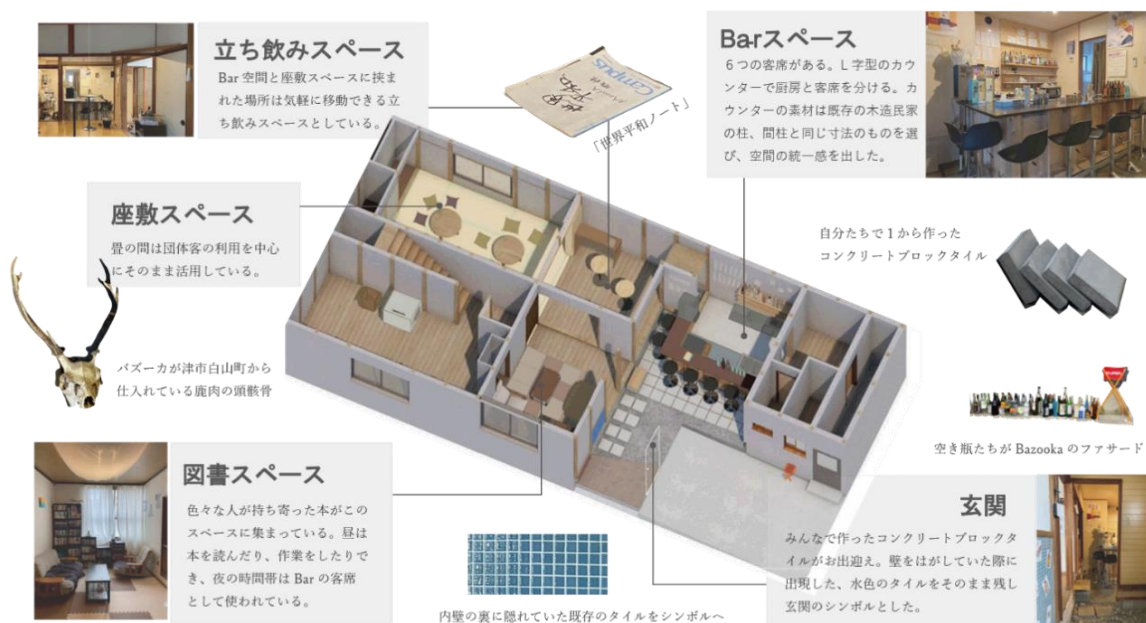
動かしながら改修を続けています。本年度は、水回りの改修計画と、玄関周りの改修、靴箱の作成などを行う予定です。

③三重大学学休憩所所：

この活動の目的は学際期間中に休憩所を設け、来場者が快適に滞在し安らげる空間を提供することです。学祭期間中の休憩場所が少ないという課題とキッチンカーの裏の活用されない三翠ホール前広場を活用することで学生の手で休憩所が作れないかと2024年の夏に考えたことがきっかけで始まり現在も続いています。

はじめの年は身近なものを使い、休憩に来た人も一緒に「つくる」ことができるつくる休憩所がコンセプトで、ペットボトルや空き缶、竹といった身近な資源を活用し建築学生ではない人でも作ることでできる場当たり的な休憩所を作成しました。2年目はコンセプトを引き継ぎつつ、より建築学科らしく構造を考え安全なものを作成しました。

また2年目では広場内でライブペインティングを行いました。これにより休憩するだけでなく、時間の経過とともに楽しむ休憩所空間を演出しました。



仲間と共に一軒の空き家と対話してきたBAZOOKAの空間は「発見した既存の面白いもの」「新しく作成したもの」「運営中に出てくるもの」全てが空間に参加している。

○助成金以外の支援希望内容

活動に用いる道具・資材等を現物でのご支給をご検討していただけるような企業にお勤めの先輩方とのご縁を求めています。また、上記活動内容に関してご関心をお持ちの方や、専門的な知識・技術をお持ちの方、活動にご協力いただける企業・団体様がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけいただけますと幸いです。

海外視察ツアー 第5弾

「タイ・バンコク及びチェンマイ5日間」報告

報告者： 柿崎 賢一（4期電気）

吉岡 望大（55期電気）

訪問先 タイ・バンコク及びチェンマイ

期間 9月16日～9月20日

今年も海外研修を実施することができ、委員長として大変な達成感を感じています。

参加して頂いた同窓生の方に改めてお礼を言いたいと思います。安全が担保でき、滞在期間、費用、訪問先、観光地の有無などを考え決定するまでが大変です。

学生諸君は世界を知る第一歩、先輩との交流のきっかけとして、長老方は若さのチェックの機会、ブチクラス会として、次回も是非参加をして頂きたいです。（委員長）

今回、三重大学工学部同窓会主催の最新IT事情視察ツアー第5弾が、9月16日～9月20日で開催されました。

私は、工学部同窓会の援助をいただいて、今回のツアーに参加することができました。

まず、同窓会の皆様に感謝を述べさせていただきます。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

メンバーは三重大学工学部同窓会員が主で、添乗員さんが1人の計14人で、訪問先はタイのバンコク及びチェンマイでした。

三重大学工学部の現役生である私には、工学部の諸先輩方との海外視察は自分の体験や思想にとっても刺激的であり、かつ新たな視点や交流を与えていただけたと感じています。よって、それを今回のツアーの体験をもとに報告させていただきます。

一日目は中部国際空港からタイのスワンナプーム国際空港へ向い、乗り換えてチェンマイ空港へ到着しました。一日目はほとんどの多くが移動の時間となってしまいましたが、それでも新しい経験を得ることができました。

まず、初めての国際線で入国カードがデジタルとなっており、事前にパスポート番号や宿泊先、個人情報などを記入しておくことができるようになっていました。このように、デジタルに置き換えることにより効率化、時短化などを行っていることが理解でき、また、顔認証のカメラや指紋登録などもあり機器を用いた効率化、セキュリティ強化などがなされておりタイはかなりのデジタル先進国なのではないかと驚きました。

空港からバスでホテルまで移動し、とても美味しい夕食をいただきました。

二日目は、まずチェンマイ市内を視察し、プラシン寺院、チェルディアン寺院などを訪れました。ガイドさんの説明を聞きチェンマイの歴史、寺院についての様々な知見を深めることができました。

次に、チェンマイ大学を訪問し、表敬ミーティングや校内視察をさせていただきました。チェンマイ大学の職員さんや通訳のミッキーさんにより、チェンマイ大学を隅々まで説明してもらいました。チェンマイ大学はかなりの広さを持ち、校内を視察するだけでもかなりの時間を要し、道中は同窓会員の質問が飛び交い、それに対して丁寧に説明をしていただいたのでチェンマイ大学についてかなり多くのことを知ることができました。

チェンマイ大学ではそれぞれの学部ごとに図書館があり、24時間勉強できるようになっていることや、工学部だけでも約2000人ほどの学生がいることなど。チェンマイ大学は学生に寄り添った施設運営や、活動を行っていることがわかり、チェンマイ大学の素晴らしさを知ることができました。



三日目は、チェンマイ空港からバンコクに移動し、住友電装、タイ現地法人SEWS-COMPONETS様に訪問、工場見学をしました。

ここでもかなりの驚きがあり、いろいろな交流を深めることができました。まず、住友電装様の歴史や会社について説明、工場を見学をしました。

「日本と海外の工場の違いはなんですか」と質問すると、「賃金の安さ、お客様の近くで製品を製造することができる」などがあるという回答ありました。また、タイの現地の方と日本人と同じように工場で働くということで、様々なことを教えることができ、ラジオ体操などを行っているということを知りました。

私は工場を見学して、工場は日本の工場と類似している点が多いことがわかりました。逆に、日本で行っていることを同じように海外の工場でおこなうことは、かなり凄いことなのではないかと気が付き、住友電装、タイ現地法人SEWS-COMPONETS様の工場の運営技術は素晴らしいと感じました。



四日目はバンコク市内のワット・アルン、午後にはアユタヤ遺跡に見学しました。双方とも細かい建築技巧や歴史的背景により荘厳な威厳、迫力があり、特にエメラルド寺院では、中国からの文化の伝来や風土の文化の融合などが、建築物から感じ取ることができました。



5日目にはバンコク、スワンナプーム空港から中部国際空港へと帰路に着きました。

今回のツアーにおいて私は二つの物を得ることができました。

一つ目は、素晴らしい工学部同窓会の諸先輩方との交流です。とても、興味深い話や経験を聞かせていただいて、様々な視点を持つことができるようになったと感じます。

二つ目が、タイの文化の知識です。これは、今回のツアーによる視察や食文化、人との交流によりタイについての様々な知識を得ることによって広い知見を得ることができました。

これらの今回得たものを糧にして、日本だけでなくグローバルな視点を持ち、今後工学部生として努力していきたいと思います。(吉岡)



第1回「鈴伊高作の会」開催報告

山田 秀樹 (5期工業化学)

昨年4月16日、桑名市内において第1回「鈴伊高作の会」を開催しました。「鈴伊高作の会」は、一昨年まで44年継続開催していた「作花杯」の終回に伴い発足した会で、会の名称「鈴伊高作」は工業化学科発足当時の1Fから4Fの各研究室主任教授であった鈴木先生、伊沢先生、高橋先生、作花先生のそれぞれの頭文字をいただき命名したものです。

当日は当時指導いただいた神谷先生、加藤先生、太田先生と工業化学科の1期から7期までの卒業生19名に参加いただきました。

会食に先立ち桑名市観光協会の語り部ボランティアによる「六華苑」の見学し、その後、併設のレストラン「ROCCA」に場を移して会食いたしました。会食時には、早川和久さん(7期卒業)が開発され、大阪万博でも展示された「たべられるシャボン玉」の紹介もあり楽しく充実した会となりました。

「鈴伊高作の会」は今後も毎年4月に開催してまいります。工業化学科の卒業生の皆さま、よろしければご参加をいただければ幸いです。

第1回「鈴伊高作の会」

2025年4月16日



六華苑 & レストラン Rocca (桑名市)



神谷寛一先生 1F



加藤忠哉先生 2F



太田清久先生(右) 4F



第4回 大学クラス会 in 長野 開催報告

阿部 豊 (3期電気)

2023 年の津市での開催から2年ぶり、通算4回目となる大学クラス会を、2025年10月12日・13日の2日間、長野市にて開催いたしました。

今回は卒業生11名が参加し、秋の信州で再会の喜びを分かち合いました。

初日は、長野駅に12時集合。再会の挨拶を交わした後、昼食をとり、午後は「松代大本営跡」を見学しました。歴史の重みを感じながら、学生時代の思い出話にも花が咲きました。

夜は「長野ホテル犀北館」にて宴会を開催。美味しい料理とともに、近況報告や昔話に笑いが絶えず、あっという間のひとときでした。

2日目は、宿坊にてガイドさんの案内で「善光寺」を参拝。静かな朝の境内を歩きながら、それぞれの想いを胸に手を合わせました。昼食には、宿坊で心づくしの精進料理をいただき、心も体も整う時間となりました。

最後は「来年も元気で再会を！」との声を掛け合いながら、次回開催地・岡崎での再会を約束して解散となりました。



名古屋支部懇親会開催報告

支部長 横山 鉦一（4期電気）

2025年10月25日（土曜日）に名古屋駅前の「焼肉ホルモン 下町の牛」にて三重大学工学部同窓会を開きました。

総勢14名（内1名は、海外視察ツアーの添乗員をされた森川さんも参加）での開催です。

今回は、初めて女性同窓会員が3名参加されました。新しい同窓会員の仲間ができ今後が楽しみです。

また化学7期の早川さんが開発し、今年開催された大阪万博に出展された、「触れる口にいれても安全シャボン玉」の実演報告もあり、大変盛り上がりしました。講演等も行っているそうなので、興味がある方は連絡してください。

その他、海外視察ツアー・アメリカ横断旅行・インド旅行・マチュピチュ旅行等、楽しい話もあり、にぎやかに過ごせました。

来年の10月24日（土曜日）に同一場所で開催することになりましたので今回参加できなかった方も是非参加していただきたいと思っています。

また、案内メールが届いていない方で、参加希望の方は、柿崎会長にメーリングリストへの登録をお願いしてください。

開催場所：焼肉ホルモン 下町の牛 日時：2025年10月25日（土曜日）17時

住所：愛知県名古屋市中村区名駅4丁目24-24 名駅司ビル1階

名古屋駅ミヤコ地下街4番出口から徒歩1分、スパイラルタワーから徒歩2分



御当地開催シリーズ第一弾 1期同期会開催報告

七加家 洋一（1期電気）

2025年10月29,30日に、御当地開催シリーズ第一弾として北陸/あわら温泉で1泊の1期生同期会を19名参加で行いました。

1日目(10/29)は、夕食と懇親会に先立ち、逝去した5名の同期生を悼み黙祷を捧げ、その後プロジェクターを活用してドローンによる工学部紹介動画、当地の伝説“嫁威谷”を素材にした“鬼婆”動画鑑賞会を実施、その後大部屋に全員が集まって2次会を開催しました。

お互いの近況報告や時事問題に関して、侃々諤々の白熱した議論もありましたが、専らお互いの生存確認と病歴自慢とに関心が集中していたような感がありました。

翌日は、ゴルフと観光に別れ、楽しい一日を過ごしました。

ゴルフ組は、スコアよりもティーグラウンドに立てる喜びを噛み締め、観光組は東尋坊を船から眺めることのできる健康に感謝し有意義な一日を全員で満喫しました。

今後も、皆の健康が続く限り毎年同期会ご当地開催シリーズを続け、60周年の節目には津で開催出来ればと思っています。

来年は、淡路島での開催を計画しています。



関東地区懇親会(忘年会)開催報告

石田 和春 (4期電気)

2025年12月6日(土)、吉祥CHINESE DINING 銀座インズ1で関東地区懇親会(忘年会)を開催しました。

参加者は18名(1E:6名、1M:3名、2E:2名、3M:2名、4E:2名、5E:1名、7C:1名、12M:1名)。

今回は部活繋がりです。新たに12Mの方の参加があり、若干若返りましたが、相変わらず1期生が参加者の半数で、中々広がって行かない状況です。皆さん同窓の親睦を深めませんか。

新しいニュースがありました。参加者から、万博で実演披露された、食べても安全なシャボン玉に続き、砂糖、卵を使用しない0カロリーメレンゲ風焼き菓子を開発したとのことでサンプルの提供がありました。その場で食した方から“美味しい“との評価が挙がっていました。

近況報告、健康談議、同窓会の活性化等々話題は尽きず時間切れでお開きとなりました。

次回は来年7月第1土曜日(7月4日)を予定しています。皆様の参加をお待ちしております。



10 期化学クラス会開催報告

浅野 清三 (10 期化学)

第5回目の10期化学科クラス会を、2年ぶりに開催しました。

24名の参加予定でしたが、直前に2名が体調不良のため欠席になり、結果22名の参加でした。理由は、足の痛みと帯状疱疹でした。この年になると、色々と体に不調が出てくるようです。

そんなことで、今後もしつまで元気でいられるか分からないので、次回のクラス会も2年後に行おうという話になりました。

毎回同じ会場で開催していますが、このご時世の諸物価高騰のせいで飲食代もかなり上がっており、会費も値上げせざるを得ません。年金生活の方もいらっしゃるし、遠方の方は交通費も余分に掛かるので、会費はなるべく安くしたいです。そして郵便代も上がりました。

そんなことで、今回からはLINEで通知することにしました。ただ、全員が繋がっている訳でもないし、やはり三分の一は郵送になりますが…

今回も新しく参加されるメンバーもいて、40年以上振りに会うので、懐かしさで一杯です。一人一人に近況を話してもらいましたが、仕事を続けている人、転職した人、完全にリタイヤした人と、それぞれ色々な人生を歩んでいると感慨深い気持ちになりました。

会の後半は、席を離れて大勢の人に会話が広がり、大いに盛り上がりました。あっという間に3時間が過ぎ、集合写真を撮ってお開きになりました。中締め挨拶は、「三重大、最高！」でした。

また二年後に皆様にお会いするのが楽しみです。



5 期電気 同窓会開催報告

平手 政俊(5 期電気)

年1回恒例となっている同窓会、電気5期今年も元気一杯のつもりで開催いたしました。

古希過ぎの面々、時期、場所も固定しつつ、安否確認のコンニチワです。

参加できる喜びも一塩です。まだまだ飲めるとお酒を酌み交わし、それぞれ新鮮な情報と遠い過去の思い出を振り返りながらの和気あいあいのひと時でした。

話題は、今何している。まだ働いているのね。すごいねから始まって、やはり健康問題、年金、確定申告、話題のAIも皆さん関心と活用がそれなりに進んでいます。さすが電気科出身、何とかついて行こうとする姿勢はプライドです。現実には老いを補完するツールとしては大変ありがたいです。

この同窓会レポートは、AI任せではありませんよ。やはり生の報告は人間味があっていいです。

こんな他愛もない会話をしているとアツという間にラストオーダー、お時間です。そしてまた来年ねと別れて散会でした。

来年も健康で再開できますようにと念じながらの集合写真ベストショットです。



ロック徒然草～音とこころの旅

岡崎 健（1期電気）

巻二（実践編）

序段「ワルブルギスの後悔」

この曲は、英国のグループ、プロコル・ハルムのファースト・アルバムのラストに入っているインストルメンタルの名曲で、作曲者はキーボード、主にハモンドオルガン担当のマシュー・フィッシャーである。ハモンドオルガン、ギター、ピアノと順に盛り上げてゆき、ボーカルが無くても十分に満足出来る重厚で壮大な曲となっている。自分もこのような楽曲が書ければなあ、いつも思う。バツハ風のメロディーで陰鬱とも感じるが、とにかく感動する。

「ワルブルギスの夜」を検索すれば、ヨーロッパの行事についての説明がある。

マシュー・フィッシャーは、彼のソロアルバムにも同じ傾向の「セパレーション」というインストルメンタル曲を入れているが、これも感動的、それも映画の悲しいシーンにぴったりな名曲である。

第一段「ザ・キンクスとロック少年」

富山市に住んでいた1972年頃、寮の仲間とつるんで、とある喫茶店に、よく通っていた。

その頃はレコードの時代で、マスターの趣味のLPの曲がお店にかかっていた。その中で、特に自分が気になった曲の演奏者が、英国のロック・グループであるザ・キンクスである。その時代、英国のビッグネームは、ザ・ビートルズ、ザ・ローリング・ストーンズであった。この二大グループではなく、ザ・キンクスがお気に入りという高校生がいるとのマスターの話を聞いて少々驚いた。高校生には若干渋めだからである。グループの初期のヒット曲は、ユー・リアリー・ガット・ミー、オール・オブ・ザ・ナイトなど、当時としては激しい曲で、のちのハードロックの先駆けとは言えるので、高校生にとって波長が合ったのだろう。その後、キンクスは、ノスタルジック路線というか、ほのぼのとした感じのメロディーの名曲、ウオータールー・サンセットやサニー・アフタヌーンなどを出して、玄人好みだが、ある程度大衆受けするグループになって行くのである。が、人気の出た彼らは、米国公演中に、行く先々のホテルで大騒ぎをやらかして、米国ツアーはしばらくできなくなった。グループの中心は、リードボーカル、ギターのレイ・デービス及びその弟で、リードギター、ボーカルのデイブの兄弟で、主にレイが曲を書く。オアシスの例でもある通り、兄弟喧嘩や、デイブの健康問題で、活動は近年なされていない。

さて、そのお店のマスターは、中肉中背でお腹がいささか気になるようだったが、冬にスキーをやると少しお腹がへこむと話していた。さて、どうだろう？自分は、50歳前くらいまでは、お腹が出ることはなく、脇腹のほうがかたまり感を感じ出したら、いつの間にか、ボンポコリンとなって狸囃子、いくらスキーをやっても元に戻ることはなかった。腹囲が85cmを越えるとメタボ認定されるので、かなりやばい。レジャー・スポーツでは、お腹をへこますのは無理だろう。

話変わって、このお店のお客さんで、カントリー&ウェスタン・ミュージックをやる人達がいて、一緒にどうだと誘われたので、練習会に出たことがある。和気あいあいと雰囲気は良かったのだが、果たしてこのジャンルの曲をやり続ける根性が自分にあるかと考えると、それは無いと思うので、グループ参加は辞退することにした。それとは別に、店のアルバイトの女子高生の一人がキーボードとバック・ボーカルでバンド活動をやっていて、ライブを観覧したことがある。バンド活動自体はうらやましく思うが、今の環境では、自分のロックは出来ないなと感じた。

キンクス好きのそのロック少年には、結局、富山時代には、会うことがなかった。

ある時、その喫茶店経由で、ギターの出物があつたらしく、次の段に出てくる寮生仲間のS君が、米国ギブソンブランドで1969年開発の、レスポール・プロフェッショナルというエレキギターのコピーモデル(日本のグレコ製)を寮に持ち帰ってきた。マスターが、私にどうかという話らしい。店に来る誰かの委託品である。ギターアンプを持っていないので、ステレオ装置のAUX端子につないで鳴らしてみたが、本来の音は出て来ず、どうしたものかと悩んでいたら、日がたってしまい、結局返しに行ったのだが、マスターには、返すのが遅いと、ご不興を買った。今から考えると、買っておいでも良かったかもしれない。かなりレアな製品ではあったので、バンド活動をやっていたら買っていたかもしれない。このギターは、有名な米国のブラスロック・グループであるシカゴのギター、ボーカルのテリー・キャスが使用していて、ピックアップがローインピーダンスで、ノイズが少ないのでミキサー直結のライン録りのレコーディングに適しているが、ギターアンプにつなぐには、専用ケーブルが必要で、面倒な代物だが、その専用ケーブルが付属していたのかは、覚えていない。その後、トランスを内蔵しているので、ハイ/ロースイッチをハイ側に切り替えるとギターアンプに接続可能なモデルが、レスポール・レコーディングで、1972年に登場した。。

テリー・キャスは、ロシアンルーレット説も囁かれたのだが、銃の暴発事故で早くに亡くなった。

ピックアップを含め、ここらへんの電気系統を全てコピー出来ているとしたら日本製恐るべし。まあ、70年代以降は、米国有名ブランドのギターは、一部日本の製造メーカーがOEM供給するようになり、さらに現在は、フェンダー社のギターの中には、例えば、ストラトキャスター・ジャパンモデルとして、堂々と販売しているモデルもあるので、品質に関しては、優劣がつかないようだ。そして、米国グレッチのギターは、今は完全に日本製かも知れない。

ここで、良い楽器とは何か?について述べると、もちろん品質と性能が重要。

加えて、今はビンテージ・ブームというのがある。生楽器だと木材の水分が抜けて年代を経る毎に、良い音になる説、バイオリンの名器ストラディバリウスなどは、塗装のニス厚さが良い音の秘密だという説。ソリッドボディのエレキギターでもネックやボディ本体の木材部分の振動が、磁界を拾うマグネチックピックアップにも影響を与える説。磁力が経年劣化するはずのピックアップなのに、1959年周辺のギブソン・レスポール・スタンダードは、銘器として、お高い値段がついている。

ちなみに、レスポール・モデルの開発者は、ジャズギター奏者のレス・ポール氏で、妻でギター、ボーカルのメアリー・フォードと共に多くのヒット曲を1950年代に生み出している。

第二段 お寿司とお酒

寮から少し離れたところに、アルコールを出さないお寿司屋さんがあった。そこは、カウンターのすぐ前に、手を洗えるように水が流れるそうめん流しのような設備があつて、風流かつ面白い趣向だなと感心した店であった。

音楽好きな寮の仲間の一人S君が言うには、お酒無しの寿司屋は、つまらんらしい。自分としては、車で行くから、別に問題ないと当時思った。が今は、お寿司屋ではいつも飲んでる私である。米国では、飲食店でのアルコール提供の資格を得るのに高額を取られるようで、アルコールを出さないレストランがある。ニュージャージーでよく通った日本食レストランがそれで、予めお酒類を購入してから入店していた。

富山市のそのお店、今もあるのだろうか？そして、お酒は出していないのだろうか？行ってみたい気がする。さらに、お店ではどんな曲がかかっていたのか、覚えていない。昔は、和風の店は、民謡がかかっていた記憶があるが、今は、静かなジャズが多いような。邪魔しない音楽が選ばれると言ったら失礼か。飲食店での生演奏だと、聞く人がいないと演奏者はつらいと思うが、どうだろうか。

第三段 暴走族とロックンロール

富山はなぜかロックンロールがメジャーらしい。暴走族に興味は無いが、音楽ジャンルとしてのロックンロールには、常習性がある。ロッカーは、バイクで、モッズは、スクーターというのが、60年代の英国特にロンドンではやりだったが。

寮の仲間の内、2人はポピュラー音楽ファンで、そのうちの一人、先のS君は特に色々幅広く、はっぴいえんどから洋楽ロックまでの守備範囲で、キャット・スティーブンスも入っていたかな。このシンガーソングライターは、のちにイスラム教に皈依して、ユスフとかいう名前に改名したが、いつしかシーンから消えていった。ボブ・ディランは、ユダヤ教から、キリスト教に改宗して、ノーベル文学賞を獲得したが、関係ないか。

米国とイスラエルのイラン叩きについて、ユダヤ人の彼に意見を聞いてみたい。彼には、戦争の親玉というヒット曲が初期のフォーク時代にあるが、今はどう言いたいのだろうか？まあ、金儲けの一環としての曲の一つだと言うかも。笑えないが。片や、ボスという愛称のブルース・スプリングスティーンは、芸術的にも、政治的にも、筋を通して来たし、これからもそうして生きて行くだろう。ずっと以前の佐藤栄作のノーベル平和賞の件は、さらに笑止千万。日本人として、恥ずかしい。一族の岸、安部しかり。

S君や寮の先輩諸氏とは、私が富山から去ったあとも何シーズンかは、新潟のスキー場で一緒に滑っていた記憶がある。

さて、1972年の富山での数少ないコンサートで、記憶にあるのは、関西で活躍していた「都落ち」なるバンドがまさに都落ちしてきて、対バンライブで観客を煽って頑張っていた光景が脳裏に鮮明に残っている。東のキャロル、西の都落ちと言われていたそうなので、アマチュアながら人気実力があつたようである。そのライブの時の曲の歌詞のリフレインで、「喧嘩してー、喧嘩してー」という曲が思い出されるが、曲のタイトルを調べたら、「雨上がりの町」というらしい。ライブで人気があつたそう。

その後、都落ちを前身としてメリケン・ブーツという日本語ロックンロールバンドが誕生したらしい。

第四段 富山湾と日本アルプス

富山湾は、急に深くなっているの、深海から岸まで多様な種類の魚介類が豊富に獲れる。白エビ、ホタルイカ、ひみ寒ブリ、紅ズワイガニなどが、有名。

浜からの投げ釣りをやったことがあるが、素人の私には釣果は無かった。

その富山湾を背にすると、日本アルプスが雄大に聳えている。主に、立山連峰が立派な壁のようだ。古代にここに住んでいた人々は、あの山を越えて行くなどは不可能と考えたに違いない。山裾までは、かなり距離があるのだが、山容の並びが立派すぎて、圧迫感があり、閉じ込められているような感覚を生じる。進撃の巨人の町の壁か。それよりも、ずーっと遠くにあって、比較にならない位、高い壁なのだ。

自分としては、精神的に良くないと感じた。

県内では、黒部ダム、五箇村、高山祭、おわら風の盆、お隣の石川県では能登半島の千枚田、金沢などには、観光で行った。残念ながら、黒部峡谷のトロッコ電車には、乗る機会が無かった。

結局、冬には富山を去って、雪の高山越えをすることになるが、FFのノーマルタイヤでチェーンも巻かず、グングン登って行ったのだが、下り道になって、前の車のブレーキランプに反応して、不用意にブレーキペダルを踏んでしまった。車は、左のガードレール側に突っ込んだが、積雪が多かったので、車の前方が雪の壁に少し入り込んだだけだったので、すぐにバックしてもとのレーンに戻り、何事も無かったごとく、太平洋側を目指した。それを目撃した対向車のドライバーは、目を白黒。

もちろん、安全な所で、チェーンは装着した。あとは、慎重運転。

山道をしばらく進むと、雪は無くなり、やがて快晴に迎えられた。

やはり、雪や曇りより晴れる方が、精神的に良い。この気候や生活環境に関して言うと、太平洋側 いいね。by クレージー・ケン・バンド??

郷里の鳥取市でも冬は雪が降るが、富山市のようないつもどんよりとした曇りが続くことは、無かったと思う。

愛知県からは、高速道路となり、快調なドライブを満喫して神奈川県に入った。カセットテープ式のカーステレオもまだ付けていなかったから、カーラジオの音楽を聴いていたと思うが、覚えていない。高速道路なら、鉄板の ハイウェイ・スターby DEEP PURPLE、一般道なら、ロードハウス・ブルースby THE DOORS あたりがベストか。

その年の神奈川の冬はあまり寒くなかった。

アマチュア無線 開局 55 年

柿崎 賢一 (4 期電気)

中学3年の時に従兄から電気の面白さを教わり、高校入学と同時に物理クラブに入りました。物理部の実態はアマチュア無線クラブで、すぐに私も最も簡単な電話級アマチュア無線の国家試験に合格しました(コールサイン JH2BJL)。親に頼んで、確か3万円ほどの送信出力1Wのトランシーバー(50MHz)を買ってもらい、昼休みにはクラブ室から近くの高校と交信を毎日のように楽しんでいました。家に帰ってからすぐにトランシーバーの電源を入れ、同世代の高校生と交信を楽しんだものです。時には太陽の黒点や電離層の異常により、アメリカやオーストラリアとつながり、大喜びした記憶があります。

その延長で三重大工学部電気工学科に進みました。大学の授業でプログラミングになじめず、重電機器メーカーに就職しました。そこで新規事業としてコンピュータシステム部門の立ち上げで、事業化の創業期に携わることができました。幸運にもその会社でシステム事業のスタートアップを学ぶことができたのです。10年後に退職し、自分のシステム開発会社を立ち上げ、独立しました。それから40年が過ぎ、現在に至っています。

アマチュア無線は何度か再開を試みましたが、仕事が忙しかったことや、プロとして電気関連に携わってきたため趣味としての関心が薄れ、続けられませんでした。ただ、25年前に自宅を建てる際、念願のアンテナを設置しました。

その後20年が過ぎ、シニア世代となり「今度こそ」と思い、1級免許(出力1000Wまで可能)を取得しました。さらに市販されている最高級の無線機(送信出力200W)を入手しましたが、それでも趣味として十分に楽しむまでには至りませんでした。

そんな折、世界中でコロナが蔓延していたころ、偶然「FT8」という交信方式を知りました。これは肉声やモールス信号ではなく、無線機とパソコンを接続し、メッセージをデータ通信でやり取りする方式です。二人のノーベル賞受賞天文学者が考案したものだそうです。小出力でも遠方と交信できる画期的な方法です。



私はこれに夢中になりました。この数年(2026年6月末現在)で256カ国、63,277局と交信することができました。交信数の世界ランキングでは1,600番台。登録局は数十万あるので、自分でも驚いています。

交信相手は、初めての局のみを対象としています。

交信の多い国は、日本(11,578局)、中国(8,572局)、ロシア(7,546局)、アメリカ(6,677局)、インドネシア(4,725局)、オーストラリア(2,437局)、ドイツ(1,711局)、フランス、イタリア、ブラジル、アルゼンチン、ウクライナ、イギリスなどです。

交信バンドは多い順に、15m(20,762局)、20m(19,973局)、40m(11,338局)です。

交信時間は、日本時間で私の通常の生活時間のみで、季節・時間帯の変化は特に気にしていません。最近では新しい国との交信はなかなか難しくなっています。アマチュア無線の世界にはおよそ350カ国があり、そのうち残っているのは大国の領土に点在する離島ばかりです。そこには定住するアマチュア無線家がいないため、移動して運用する方の電波を待つしかありません。

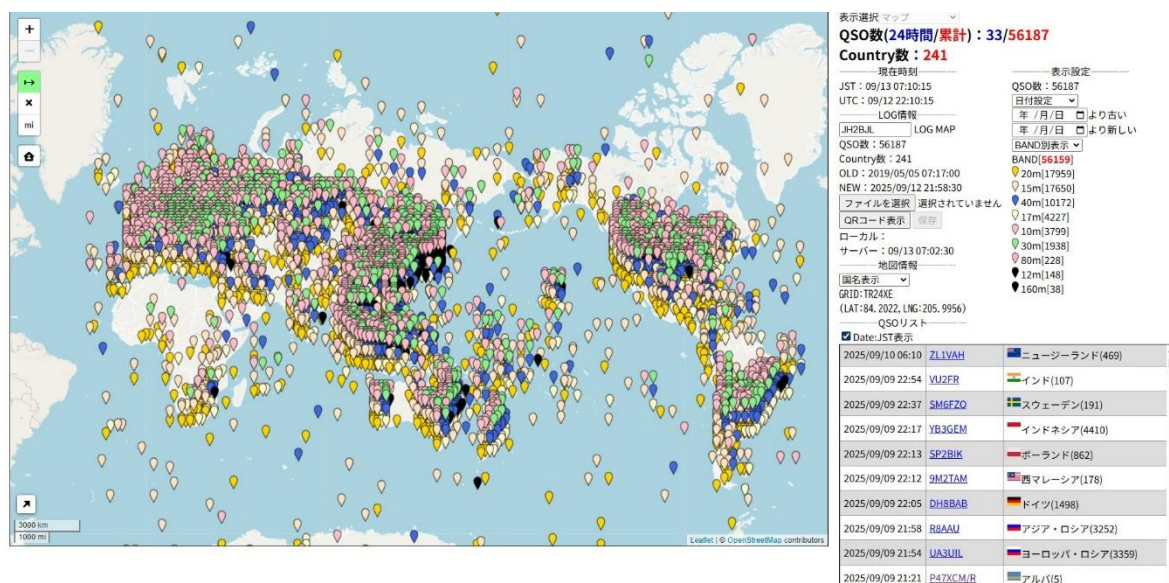
世界には多くの利用者がいて、インターネットを通じて交信情報やカード交換が可能です。交信記録も世界レベルで効率的に管理され、地図上にプロットされるほか、各種のアワードが用意されており、長く楽しめる仕組みがあります。

やっと高校時代の憧れだった趣味を満喫できるようになりました。老後の楽しみができたことを嬉しく思っています。最近では若い人があまりやらないようで、コールサインから推測すると同年代の方が多いようです。おそらく同窓生にも現役のアマチュア無線家がそれなりにいると思います。連絡をお待ちしています。

連絡先は JH2BJL@gmail.com です。

参考までにFT8の説明

https://www.jarl.org/Japanese/0_JarlNews/Digest/pdf/JN2019WIN_1_ft8.pdf



令和 7 年 4 月 30 日

工学部同窓会 会計報告

会計期間： 令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日

収入の部

令和 5 年度からの繰越

預貯金 49,959,416 円

現金 19,206 円

会費（令和 6 年度入会金） 4,092,964 円

雑収入

利息 19,417 円

合 計 54,091,003 円

支出の部

運営費

事務費 3,713,990 円

会議費 84,660 円

ホームページ維持費 1,353,000 円

事業費

会誌発行 4,259,354 円

卒業・修了記念写真配布 587,520 円

会員のネットワーク化 256,000 円

研究・奨学補助 2,227,500 円

視察旅行 1,300,000 円

グローバル人材育成 750,000 円

年次総会実行 68,680 円

その他 747,120 円

令和 7 年度への繰越

預貯金 38,723,973 円

現金 19,206 円

合 計 54,091,003 円

工学部同窓会 会長 柿崎賢一

工学部同窓会 会計 川中普晴、中西栄徳

会 計 監 査 報 告 書

三重大学工学同窓会 会長

柿崎 賢一 殿

会計監査は、三重大学工学部同窓会の会則第 7 条ならびに同会の会計規則第 23 条の規定に基づき、当会の

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

までの会計報告書の収支決算の内容について監査したところ、決算は正確かつ適切であることを認めます。

会計監査 **岡崎 健** (1 期電気)

メールにて監査報告・承認を得ております。

会計監査 **井上 正則** (3 期電気)

メールにて監査報告・承認を得ております。

令和 8 年 4 月 30 日

工学部同窓会 会計報告

会計期間： 令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日

収入の部

令和 6 年度からの繰越

預貯金 38,723,973 円

現金 19,206 円

会費（令和 7 年度入会金） 8,282,040 円

雑収入

利息 63,665 円

合 計 47,088,884 円

支出の部

運営費

事務費 512,413 円

会議費 70,480 円

ホームページ維持費 1,386,000 円

事業費

会誌発行 4,449,438 円

卒業・修了記念写真配布 619,600 円

会員のネットワーク化 220,000 円

研究・奨学補助 3,027,500 円

視察旅行 1,400,000 円

グローバル人材育成 730,500 円

年次総会実行 62,430 円

その他 1,109,148 円

令和 8 年度への繰越

預貯金 33,482,169 円

現金 19,206 円

合 計 47,088,884 円

工学部同窓会 会長 柿崎賢一

工学部同窓会 会計 川中普晴、中西栄徳

会 計 監 査 報 告 書

三重大学工学同窓会 会長

柿崎 賢一 殿

会計監査は、三重大学工学部同窓会の会則第 7 条ならびに同会の会計規則第 23 条の規定に基づき、当会の

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日

までの会計報告書の収支決算の内容について監査したところ、決算は正確かつ適切であることを認めます。

会計監査 **岡崎 健** (1 期電気)

メールにて監査報告・承認を得ております。

会計監査 **井上 正則** (3 期電気)

メールにて監査報告・承認を得ております。

三重大学振興基金ご協力をお願い

これまで「三重大学振興基金」にご寄附・ご支援を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。お寄せいただいたご厚意は、教育環境の整備や研究活動の推進に大きな力となっております。

三重大学は、平成 16 年度より国立大学法人として「三重の力を世界へ」を基本目標に掲げ、地域に根ざしつつ世界に誇れる教育・研究の成果を創出し、人類福祉の増進や自然との調和・共生、地域・国際社会の発展に貢献できる人材育成と研究活動に取り組んでまいりました。しかし法人化以降、基盤的予算の削減が進み、新たな課題に応じた戦略的な投資を行うことが難しい状況にあります。こうした背景のもと、本学は「三重大学振興基金」を設立し、卒業生や地域社会の皆様からの温かいご支援を教育環境の充実や研究活動の推進に役立てております。

今後も本基金の趣旨にご理解とご賛同をいただき、より一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第 2 食堂改修事業

目標額

1,000
万円



第 2 食堂は、学生・教職員の憩いの場として長年親しまれてきました。しかし、大規模改修からすでに 30 年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。今こそ、次世代の学生たちが快適に利用できるよう、建物全体の改修を実施する時期を迎えています。本改修では、内装の刷新、座席数の増加、バリアフリー対応の強化などを通じて、より安全で、より快適な「三重大の食の拠点」を再生します。

改修内容

- 内装のリニューアル
明るく清潔感のある空間へと刷新。学生が快適に過ごせる環境を整備。
- バリアフリー・キャッシュレス対応の強化
すべての学生が使いやすい食堂。ユニバーサルデザインと利便性を向上。

目標額

500
万円

三翠会館改修事業



改修内容

- 耐震補強と安全性の向上
登録有形文化財としての価値を守り、安心して利用できる施設へ。
- 保存修復による歴史的意匠の再生
外観・内装の意匠を丁寧に修復。三重大学の歴史を感じられる空間に再構築。

三翠会館は、昭和 11 年に建設され、今年で 89 年の歴史を誇る、登録有形文化財です。平成 14 年に改修しましたが、老朽化が著しく進行しています。この貴重な文化財を未来へ継承するため、三重大学では建物の保存と活用を目的とした全面改修工事を実施します。本事業は、国の「文化資源活用事業補助金（観光拠点整備事業）」を活用し、地域と大学の交流拠点としての機能も強化していきます。

三重大学振興基金事業

一般基金	特定基金	その他の基金
● 三重大学全体における奨学援助 ● 修学環境整備事業 ● 国際交流活動等への支援事業 ● 地域貢献支援事業 ● その他本学の目的達成に必要な事業等	● 三重大学修学支援事業 ● 学部・研究科等プロジェクト事業 ● 地域圏防災・減災事業	● 遺贈による寄附 ● クラウドファンディング事業 ● 冠基金事業
	 三重大学マスコットキャラクターミールド	 振興基金ホームページ

ご寄附の方法

1 インターネット申込

- クレジットカード決済
- コンビニ決済
- Pay-easy（ペイジー）決済

三重大学振興基金

詳細はホームページをご覧ください



ご寄附の方法についての詳細はこちらから →

2 郵便振替・銀行振込

三重大学振興基金事務局から本学専用振込用紙（ゆうちょ銀行）を郵送させていただきます。（振込手数料は本学が負担します）

【本学専用振込用紙を利用しない場合】

郵便振替または銀行振込（ゆうちょ銀行以外）の場合は、本学への寄附申込書の提出が必要となります。

寄附申込書は本学ホームページよりダウンロードしていただき、必要事項をご記入の上、郵送または FAX、E-mail にて三重大学振興基金事務局まで提出願います。電話でもお受けしております。
※この場合の振込手数料は、下記の指定銀行の本・支店窓口の場合、本学が負担いたしますが、指定銀行以外での窓口の場合、振込手数料は寄附者様のご負担となります。

振込先名 「国立大学法人 三重大学」

各振興基金事業（修学支援事業以外）用口座

振替・振込先	種類	口座番号
ゆうちょ銀行		00800-0-168781
百五銀行津駅前支店	普通	771322
三十三銀行三重大前支店	普通	305506
みずほ銀行津支店	普通	1757352

修学支援事業用口座

振替・振込先	種類	口座番号
ゆうちょ銀行		00880-9-216860
百五銀行津駅前支店	普通	912599
三十三銀行三重大前支店	普通	351163
みずほ銀行津支店	普通	1892713

【お問い合わせ】

〒514-5807 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学振興基金事務局（企画総務部総務チーム内）

TEL : 059-231-9005 FAX : 059-231-9000 E-mail : kikin@ab.mie-u.ac.jp

国立大学法人
三重大学

工学部 入学期 早見表

期	入学年 (西暦)	入学年 (和暦)	期	入学年 (西暦)	入学年 (和暦)
1	1969	昭和 44	31	1999	平成 11
2	1970	45	32	2000	12
3	1971	46	33	2001	13
4	1972	47	34	2002	14
5	1973	48	35	2003	15
6	1974	49	36	2004	16
7	1975	50	37	2005	17
8	1976	51	38	2006	18
9	1977	52	39	2007	19
10	1978	53	40	2008	20
11	1979	54	41	2009	21
12	1980	55	42	2010	22
13	1981	56	43	2011	23
14	1982	57	44	2012	24
15	1983	58	45	2013	25
16	1984	59	46	2014	26
17	1985	60	47	2015	27
18	1986	61	48	2016	28
19	1987	62	49	2017	29
20	1988	63	50	2018	30
21	1989	平成元	51	2019	令和元
22	1990	2	52	2020	2
23	1991	3	53	2021	3
24	1992	4	54	2022	4
25	1993	5	55	2023	5
26	1994	6	56	2024	6
27	1995	7	57	2025	7
28	1996	8	58	2026	8
29	1997	9	59	2027	9
30	1998	10	60	2028	10

※「期」の規定 … 学部・修士・博士いずれか最初に入学した年

例① 2020 年学部入学／2024 年修士課程入学 … 52 期(学部から修士へと進んだケース)

例② 2023 年博士課程入学 … 55 期(他の大学卒業後の入学・社会人入学・留学生などのケース)

役員・幹事を募集しています 同窓会役員 / クラス会幹事

* あわせて「工学部同窓生 女性活躍の集い」を開催予定！
興味ある方はご連絡ください



ご連絡先: 同窓会会長 柿崎(電気 4 期)まで 右 QR メールフォームからどうぞ

主催：株式会社プロジェクトM

三重大学生のための

ミニ企業説明会

フリートーク制

企業との出会いで、
未来の自分を描こう。

Function（ファンクション）は、三重大学生と企業との出会いの場として開催される少人数制の企業説明会です。企業の担当者から事業内容や仕事内容について直接話を聞くことができ、業界研究やキャリア形成に役立つ情報を得ることができます。ぜひご参加ください。

フリートーク形式
だから
気軽に話せる！



※画像はイメージです

会場
seed. 1F



参加のメリット



少人数で
じっくり話せる

企業の担当者と近い距離で、
直接質問や相談ができます。



業界・企業理解が
深まる

さまざまな業界の企業を知り、
自分の視野を広げられます。



キャリアの
第一歩に

将来の選択肢を見つける
きっかけに。

参加企業（順不同）

※6/1 現在の情報です。参加企業は変更場合があります。

- | | | |
|-------------------------|-----------------|-----------------------------|
| ■ 愛三工業株式会社 | ■ 株式会社岐阜セラック製造所 | ■ ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社 |
| ■ イトモル株式会社 | ■ 名三工業株式会社 | ■ 徳倉建設株式会社 |
| ■ イビデン株式会社 | ■ 株式会社サンテック | ■ 富士フイルムヘルスケア |
| ■ エステートケミカル株式会社 | ■ 昭和四日市石油株式会社 | ■ マニフアクチャリング株式会社 |
| ■ 株式会社アルファクルーズ | ■ 株式会社松阪鉄工所 | ■ 富士フイルムマニフアクチャリング株式会社 |
| ■ 株式会社カーネル・ソフト・エンジニアリング | ■ 株式会社三瑠プレジジョン | ■ 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 |



来場・予約特典

- ・Amazonギフトカード1,000円分プレゼント！（来場特典）
 - ・事前予約でさらにAmazonギフトカード1,000円分！（予約特典）
 - ・参加企業と話すチケットがもらえ、景品と交換できます！（チケット制度）
- ※特典は数に限りがあります。



主催：株式会社プロジェクトM
（三重大発ベンチャー）

〒514-0102 三重県津市栗真町屋町1661-3

🌐 <https://mie-projectm.com/>

イベントの詳細・参加企業情報は

学生向けサイト ▶

<https://mie-function.com/for-students>



BUILD AS ONE 人からはじまる、まちづくり

ひとりじゃできない仕事だから 想いをひとつに、つくりあげる

学校や病院、マンションなどの建物を建てる建築事業、
道路や橋などの社会インフラを築く土木事業、
途上国や日系企業の海外展開を支える国際事業。

これら3つを中心にして、様々な事業を展開する徳倉建設。
互いの事業が協力し、刺激し合いながら発展を続けています。

活躍できるフィールド

- ★ 土木(施工管理、技術・DX)
- ★ 建築(施工管理、設計(意匠・構造・設備))
- ★ 事務
- ★ 営業
- ★ 情報

徳倉建設のココがイイ！

- ★ 成長できるところがイイ！
新入社員研修や資格取得のサポートが充実
- ★ チームワークがイイ！
20代や女性社員の定着率が高く、仲の良さも自慢
- ★ 建築も土木も両方あるからイイ！
どちらもバランスよく手がけ、幅広い領域を担い成長
- ★ 規模感がイイ！
程よい規模感で、自分の力をのびのびと発揮
- ★ 社会的意義がイイ！
社会に必要なものを作り上げ、形づくる使命・やりがい
- ★ 日本国内だけじゃないのがイイ！
中南米や東南アジアを中心にプロジェクトに参画



徳倉建設 株式会社



採用情報ははこちらから ▶ <https://tokura-recruit.jp/>

本社
愛知県名古屋市中区錦三丁目13番5号
本店伏見オフィス
愛知県名古屋市中区錦一丁目18番22号 名古屋ATビル6階
TEL: 052-211-8735 E-mail: jinji@info.tokura.co.jp



Beyond The Electronics

エレクトロニクスの最先端を、走り続ける。

当社は、自動車関連企業向けに高度なシステム開発で
40年の実績をもつ「カーネル・ソフト・エンジニアリング」の
ハードウェア開発部門が分社・独立し、
2022年に設立された会社です。

自動車制御システムの設計・開発を手掛けており、
ハードウェアに特化したエキスパートとして、
自動車の「利便性」と「安全性」の向上に貢献し、
安全で快適な自動車社会の一端を担っています。
変化し続ける自動車業界において、
培ってきたハードウェア技術を強みに、
クルマの未来づくりに貢献しています。



会社概要

- 設立
1985年6月24日 (2022年分社化)
- 代表取締役社長
鈴木伸一
- 社員数
59名 (ITグループ合計1,000名)
- 関連会社
株式会社カーネルコンセプト
株式会社
カーネル・ソフト・エンジニアリング
KERNEL PHILIPPINES, INC

求める人物像

- チームを大切にできる方
- コツコツ努力できる方
- 能動的に動ける方
- 挑戦を楽しめる方

株式会社
カーネルエレクトロニクス

▶ www.kernel-el.co.jp

CONTACT

TEL
0120-504-106

Web
saiyou-kel@kernel-se.co.jp



コーポレート
サイト



採用サイト

**Kernel
Electronics**

Go forward, Good solution

エンジニアの力で、まだ見ぬ未来を実現する。



設立40年の独立系IT企業です。
急速に変化する社会情勢に対応し、
ITソリューションで様々な業界の課題解決に貢献しています。

長年培ってきたシステム開発力をベースに、
自動車における制御システム開発、
ビジネスシーンで活用される次世代システムの開発、
自社製品の開発、公共事業系システムのIT化・DX推進など、
幅広い領域の開発を行っています。

東京・大阪・福岡の事務所開設を始め、
海外にグループ会社も設立し、更なる事業拡大を図っています。

会社概要

- 設立
1985年6月24日（1992年分社化）
- 代表取締役社長
鈴木伸一
- 社員数
891名（ITグループ合計1,000名）
- 関連会社
株式会社カーネルコンセプト
株式会社カーネルエレクトロニクス
KERNEL PHILIPPINES, INC.

求める人物像

- チームを大切にできる方
- コツコツ努力できる方
- 能動的に動ける方
- 挑戦を楽しめる方

株式会社
カーネル・ソフト・エンジニアリング

▶ www.kernel-se.co.jp

CONTACT

TEL
0120-624-003

Mail
saiyou-kse@kernel-se.co.jp



コーポレート
サイト



採用サイト

Kernel
Software
Engineering

広告募集

保 存 率 の 高 い
同 窓 会 会 報 誌 で
P R し ま せ ん か ？

お問い合わせは
contact@mie-projectm
プロジェクト M まで

地域の水インフラを守ります。

ポンプ、電気設備の「プラントコーディネーター」



三愛物産株式会社

三重支店

三重県津市藤方1165-1 TEL：059-228-5101

<https://www.sann-ai.jp>

三重大学生専用フリースペース

seed.

ここから、つながる。広がる。育つ。



勉強に



休憩に



待ち合わせに



ランチにも
使える！



無料ドリンク
コーナー



コミック
設置



ボードゲーム
設置



電子レンジあり！
ランチもOK！

勉強に、休憩に、
待ち合わせに。

集中もリラックスも、ここなら思いのまま。

使い方はあなた次第で無限大！



学生用メールアドレスで簡単登録
登録はこちらから！▶



ホームページのご案内と会則改正案アンケート

三重大学ホームページには工学部及び工学部同窓会に関する様々な情報が掲載されています。今年度から工学的な活動を行う学生団体活動支援という取り組みを始めました。採択された団体から工学部OBの支援を求める記事も掲載されています。ぜひ一度アクセスしてみてください。



工学部同窓会のホームページの QR コード

三重大学工学部同窓会では、同会則の改正を検討しております。今後の円滑な運営に向け、同窓生の皆様・関係者の皆様からのご意見や情報を参考とさせていただきたく、特設ページを開設いたしました。詳細の確認、およびご意見・近況のご報告につきましては、以下のQRコードより特設ページへアクセスをお願いいたします。

※特設ページへのアクセスおよびご回答には、「会員番号」または「卒業年」等の入力が必要です。

※同窓会特設ページ、またはホームページに掲載のメールフォームでは、会員の皆様の「住所変更・改姓等の各種手続き」も年中無休で受け付けております。お引越し等で登録情報が変わられた際の手続き方法についても、上記QRコードよりご確認いただけます。



会則改正案の OR コード



特設ページの OR コード

編集後記

「あの津から」復刊第13号をお届けします。今号も編集委員と会員の皆様のご協力に支えられての刊行となりました。あらためて御礼を申し上げます。

今号で新しかったのは、「工学部同窓生 女性活躍の集い」の発足についてのご寄稿です。理系を志す女性はまだ数が少なく、母校も女子学生の募集に力を注いでいると聞きます。卒業後も世代を越えて繋がれる場をつくることは、同窓会の大切な役割だと感じています。

研究室訪問も号を重ねました。暮らしを豊かにする研究、人のための研究に取り組む後輩たちの姿に、同じ学窓に学んだ者として誇らしい思いがします。留学生とも和やかに、楽しく厳しく研究へ向き合う現場に、母校のたしかな歩みを感じました。

最後に原稿募集を。先輩方の振り返りに加え、若い卒業生や在学生の声も、近況のひと言で構いません。ご連絡をお待ちしています。(柿崎)

三重大大学工学部同窓会誌

あの津から

発行日 2026 年 7 月 31 日

三重大大学工学部同窓会

会 長 柿崎 賢一 (第 4期電気工学科)

編集委員会

委員長 金子 聡 (第20期工業化学科)

委 員 岡崎 健 (第 1期電気工学科)

堀尾 隆 (第 1期電気工学科)

松原 辰巳 (第 2期工業化学科)

奥田 英次 (第 2期工業化学科)

野呂 雄一 (第12期電気工学科)

若林 哲史 (第13期電気工学科)

中西 栄徳 (第23期機械工学科)

本同窓会誌のバックナンバーは、三重大工学部同窓会のWEBサイトでご覧いただけます。<https://www.dousoukai-mie-ueng.org/>

本書の内容の全部または一部を、著者の許可なく複製、転載、翻訳、改変することを禁じます。



表紙写真より

今号の表紙写真は講堂(三翠ホール)とともに整備された工学部の前庭にあるモニュメント「5つのささえあうかたち」です。三重大学の5つの学部を象徴しています。例年、卒業式の集合写真はこの前で撮影しています。

前号の解答

前号の裏表紙に「おまけ」として三重大工学部から見た神島の手前の海上に浮かぶ構造物の写真を載せました。これは正式名称を「伊勢湾湾西観測機器」といい、伊勢湾の水質を定点観測している機器(ブイ)でした。、北緯 $34^{\circ}41'41.8''$ 、東経 $136^{\circ}38'9.8''$ の水深29mの海底に固定されています。海上に出ている部分の高さは約9mです。撮影場所の工学部6号館からの距離は11.3kmで、神島47.2kmよりかなり手前ですが、見事に同一直線状に位置しています。観測器の詳細は以下のHP(URLとQRコードを掲載)で確認できます。

https://www.isewan-db.go.jp/REAL_WEB/REAL_WEB_buoy/manual/伊勢湾湾西観測機器について.pdf



工学部同窓会HP

<https://www.dousoukai-mie-ueng.org/>